

カフェトーク in 北九州

～議員とまちを語ろう～

実施報告書

平成30年11月

目 次

I カフェトーク in 北九州 実施結果概要

1	開催日時・開催場所・参加者数	2
2	プログラム	2
3	基調講演資料 別紙 1	3
4	議事録 別紙 2	6
5	意見シートによる意見 別紙 3	39
6	参加者アンケート結果 別紙 4	48

II カフェトーク in 北九州 に関する活動結果について

1	運営会議の開催状況	55
2	広報活動	56
3	開催当日の様子	57

(参考添付)

- ・ 開催チラシ
- ・ 意見シート
- ・ 参加者アンケート

カフェトーク in 北九州 実施結果概要

1. 開催日時・開催場所・参加者数

- 〈開催日時〉平成30年10月28日(日)
13:30~15:40(開場/13:00~)
- 〈開催場所〉チャチャタウン小倉 イベント広場
(小倉北区砂津3丁目1-1)
- 〈参加者数〉約800人

2. プログラム

- (1) 挨拶 13:30~
井上 秀作(北九州市議会 議長)
大貝 敏之(北九州青年会議所 理事長)
- (2) 基調講演 13:45~
テーマ「北九州市の人口動態について」
南 博 氏(北九州市立大学地域戦略研究所 教授)
- (3) パネルディスカッション 14:00~15:40
テーマ「人口減少について」
- パネリスト
- 《北九州市議会議員》
佐藤 栄作(小倉北区)
松岡 裕一郎(小倉北区)
奥村 直樹(門司区)
荒川 徹(戸畑区)
- 《北九州若者まちづくりサポーター》
木村 紗彩さん(九州大学1年)
木元 利早子さん(常磐高等学校3年)
伊藤 尚希さん(九州国際大学附属高等学校2年)
榎本 咲子さん(小倉高等学校1年)
- コーディネーター
南 博 氏(北九州市立大学地域戦略研究所 教授)

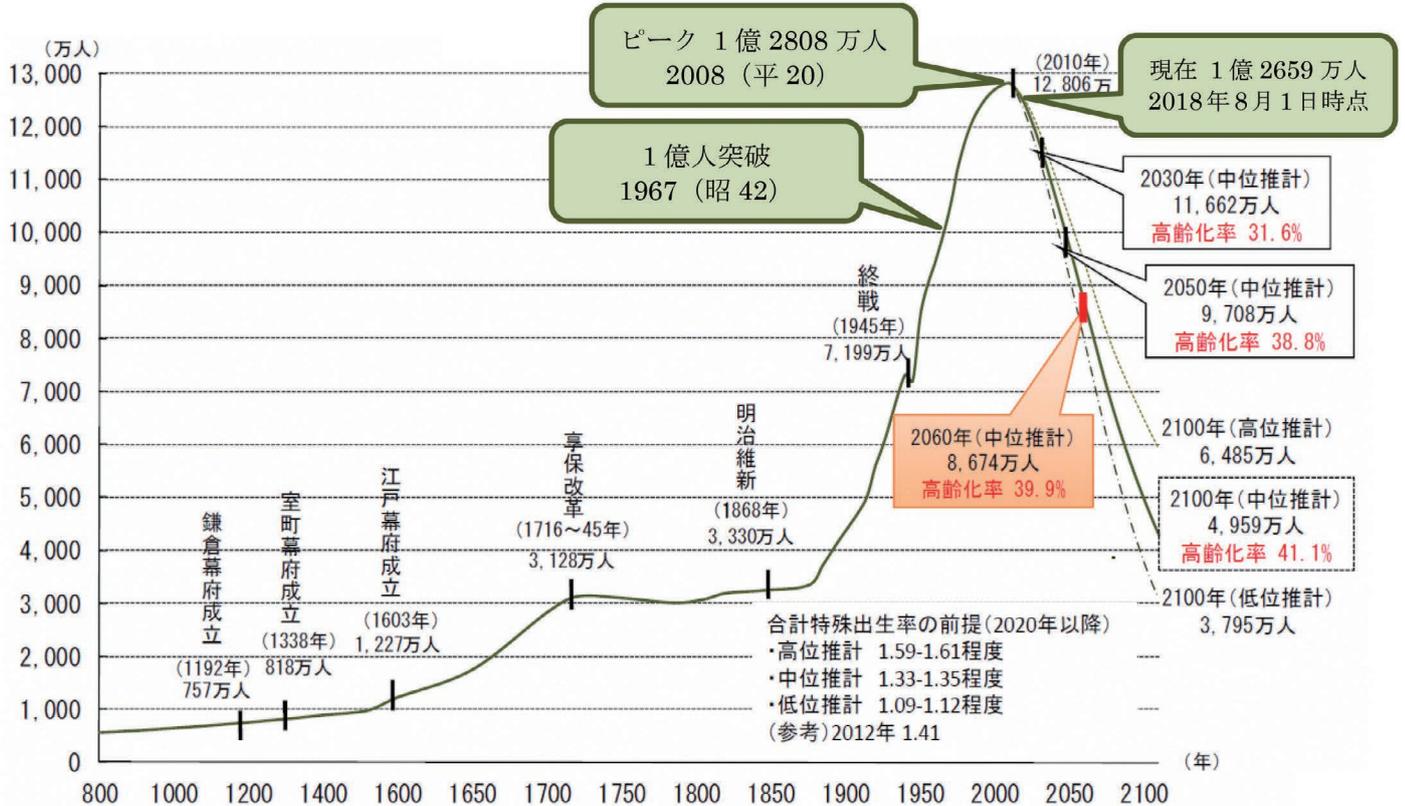
3. 基調講演資料 別紙1 参照
4. 議事録 別紙2 参照
5. 意見シートによる意見 別紙3 参照
6. 参加者アンケート結果 別紙4 参照

北九州市の人口動態について

北九州市立大学 教授 南 博

1. 日本の人口推移と今後の予測

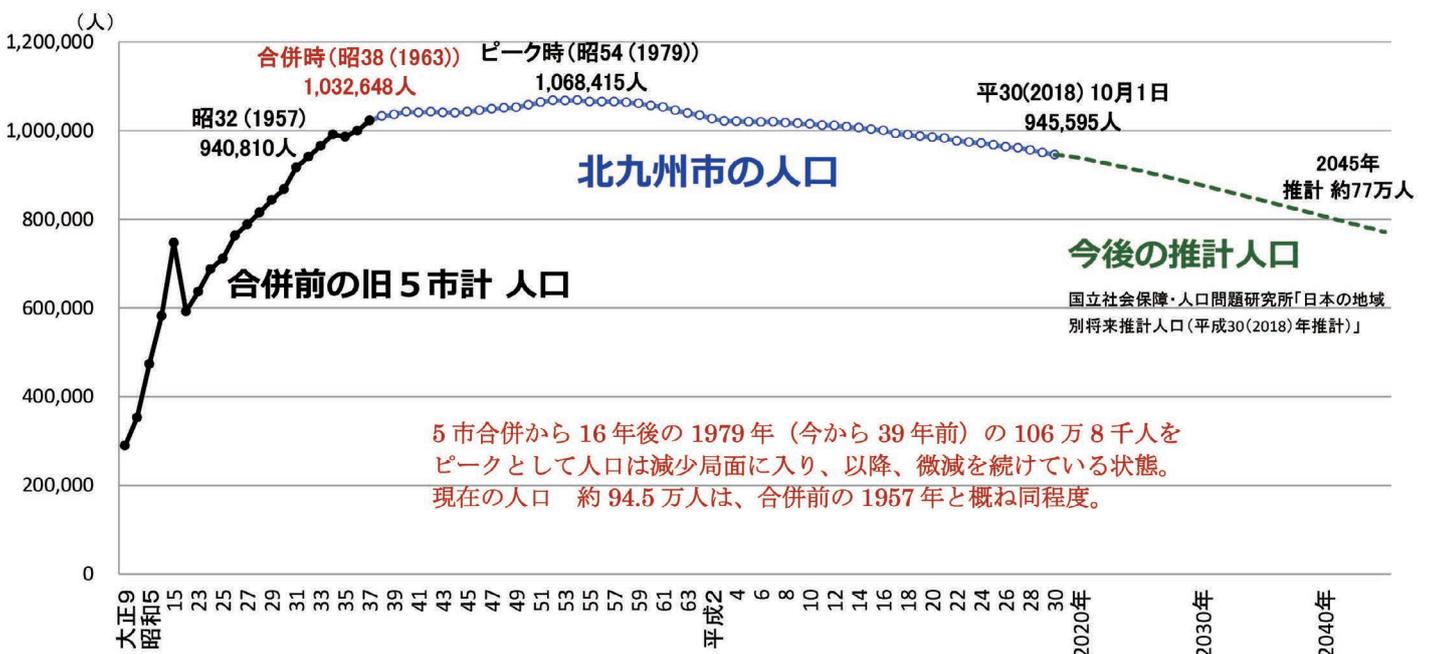
出典) 内閣府 (2014) 資料 (2011年の国土交通省資料に基づき作成) に加筆



(備考) 国土交通省「国土の長期展望」(2011年)をもとに作成。
2010年以前の人口: 総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)
それ以降の人口: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口 (平成24年1月推計)」

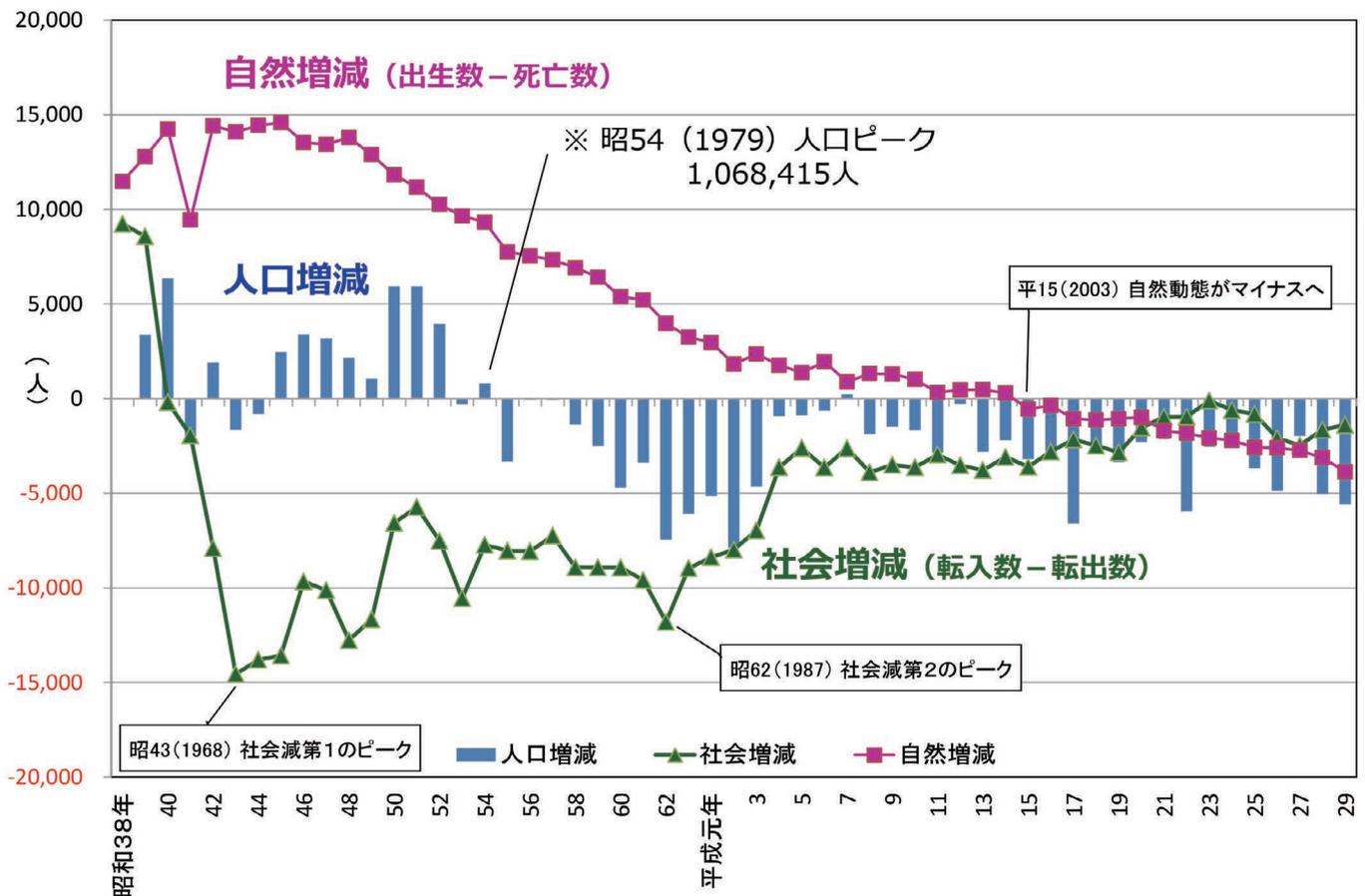
2. 北九州市の人口の推移

出典) 国勢調査報告、北九州市資料、社人研推計をもとに作成



3. 北九州市の人口における、自然増減、社会増減の推移

出典) 北九州市資料をもとに作成



- 青い棒グラフ： 人口全体の増減数。昭和 54 (1979) 年までは概ね人口増の年が多く、以降は概ね減少。
- 緑色の折れ線： 社会増減。長期的にみると社会増減は大幅に改善傾向にあり、特にこの 10 年程は「社会増の状態 (引越してくる人の方が、引越していく人より多い) まで、あと一歩」の状況。
- 紫色の折れ線： 自然増減。昭和時代は社会減が年 1 万人以上にのぼる時もあったが、この頃は自然増が多い時代だったので人口減があまり進まなかった。しかし少子高齢化が進展し、2003 年には自然減の状態となり、今では社会減よりも自然減の方が多い。

4. 北九州市の地方別転入・転出 (社会増減) 状況 (平 29 (2017))

出典) 住民基本台帳人口移動報告 (2017) をもとに作成

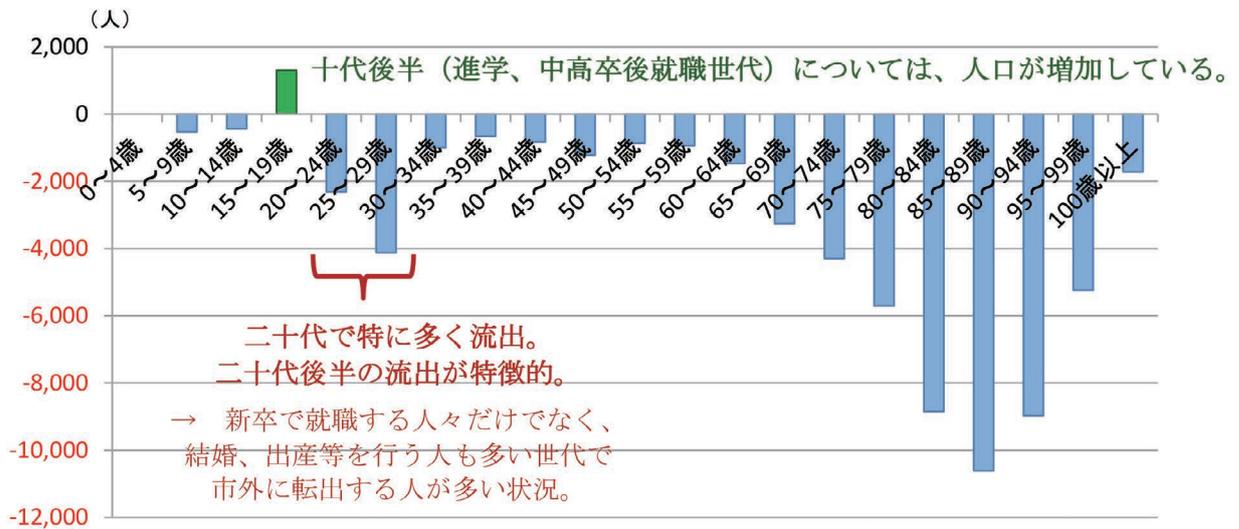
相手先の地方	北九州市への転入	北九州市からの転出	転入 - 転出
北海道・東北	436	310	126
関東	2,997	4,455	▲ 1,458
うち東京都	1,212	1,978	▲ 766
中部	1,127	1,088	39
近畿	1,861	2,075	▲ 214
うち大阪府	775	979	▲ 204
中四国	2,886	2,629	257
うち山口県	1,537	1,228	309
九州・沖縄	14,866	15,864	▲ 998
うち福岡県	9,828	11,731	▲ 1,903
うち福岡市	2,991	4,280	▲ 1,289
合計	24,173	26,421	▲ 2,248

北九州市から転出超過となっているのは、主に関東と、福岡県内の他市町村 (福岡市など)

※2017年1～12月。日本人のみ集計

5. 北九州市における年齢別の人口増減比較（平 22→27 の比較）

出典）国勢調査報告をもとに作成



6. 北九州地区の学校卒業者の地域別就職先調査結果（平成 29(2017)年 3 月卒）

出典）北九州市雇用政策課調査をもとに作成

内 訳	高校	高専・短大	大学
卒業者数（人）	10,342	831	4,957
就職者数（割合）	21.3%	74.5%	77.2%
福岡県内	17.8%	52.9%	34.3%
北九州地区	15.3%	40.4%	17.6%
北九州市	12.4%	34.5%	16.0%
※人数	1,281人	287人	795人
中間遠賀	0.5%	3.6%	0.7%
京築	2.4%	2.3%	0.8%
福岡市	1.0%	4.9%	11.0%
その他	1.5%	7.6%	5.7%
県外	3.4%	21.5%	42.5%
東京圏	1.0%	7.3%	18.5%
九州（福岡以外）	0.5%	4.2%	8.7%
その他	1.9%	10.0%	15.3%
就職地未決定	0.0%	0.0%	0.4%
就職未決定者（割合）	0.5%	1.9%	1.7%
その他（進学等）（割合）	78.2%	23.6%	21.1%

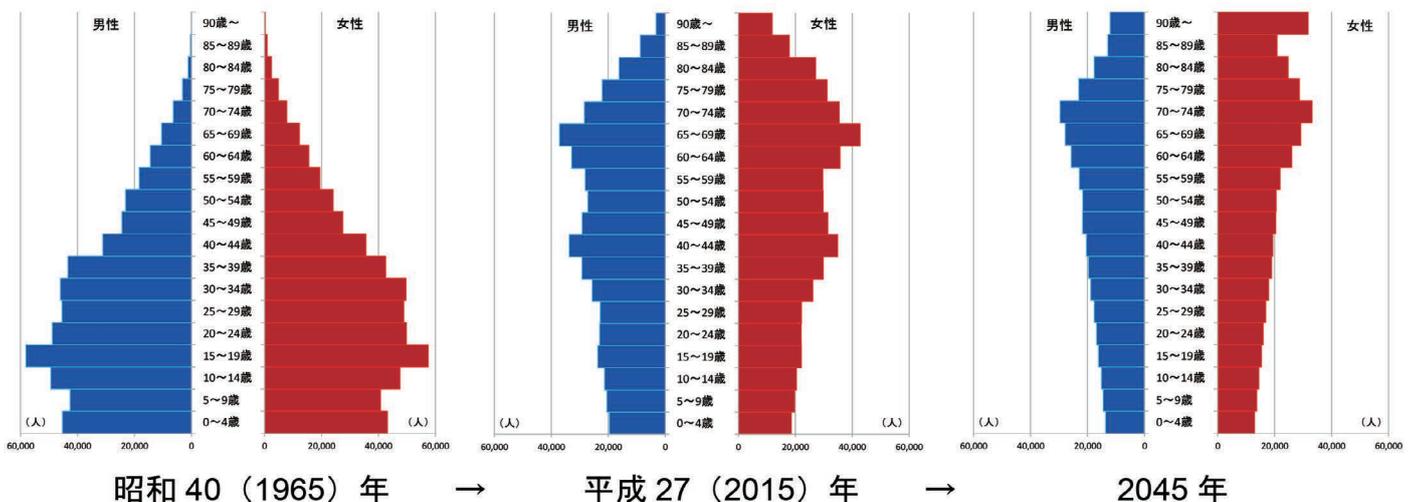
※北九州市内就職者数の「就職者」に占める割合

高校	高専・短大	大学
58.1%	46.4%	20.8%

※県外就職者数の「就職者」に占める割合

高校	高専・短大	大学
16.2%	28.9%	55.0%

7. 北九州市の年齢別人口構成の過去、現在、未来（推計）



少子高齢化、人口減少が進み、今後も進む見込み。

出典）1965 年、2015 年は国勢調査報告。
2045 年は国立社会保障・人口問題
研究所「日本の地域別将来推計人口
（平成 30（2018）年推計）」

カフェトーク in 北九州～議員とまちを語ろう～
議事録

【日時】平成 30 年 10 月 28 日（日）13:30～15:40

【場所】チャチャタウン小倉 イベント広場

【次第】

1 挨拶

○北九州市議会議長 井上 秀作

○北九州青年会議所理事長 大貝 敏之

2 基調講演

テーマ「北九州市の人口動態について」

○北九州市立大学地域戦略研究所教授 南 博氏

3 パネルディスカッション

テーマ「人口減少について」

○パネリスト

《北九州市議会議員》

佐藤 栄作（小倉北区）

松岡裕一郎（小倉北区）

奥村 直樹（門司区）

荒川 徹（戸畑区）

《北九州若者まちづくりサポーター》

木村 紗彩さん（九州大学 1 年）

木元利早子さん（常磐高等学校 3 年）

伊藤 尚希さん（九州国際大学附属高等学校 2 年）

榎本 咲子さん（小倉高等学校 1 年）

○コーディネーター 南 博氏（北九州市立大学地域戦略研究所教授）

○司会（讚井）議員とまちを語ろうということで、本日初の試みであります、カフェトーク in 北九州を開催いたします。

本日、司会を務めさせていただきます、北九州市議会議員の讚井早智子と。

○司会（宇都宮）北筑高校1年の宇都宮一花です。

○司会（讚井）若いですね。親子くらいのコンビで、本日、司会を務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

早速ですが、主催者の挨拶といたしまして、北九州市議会 井上秀作議長より御挨拶をいただきます。井上議長、よろしく願いいたします。

主催者挨拶

北九州市議会議長 井上 秀作

皆さん、こんにちは。主催者を代表して、一言、御挨拶を申し上げたいと思います。

私は、北九州市議会の議長を務めております、井上でございます。本日は、カフェトーク in 北九州～議員とまちを語ろう～に、このようにたくさん御参加をいただきまして、本当にありがとうございます。

北九州市議会では、平成23年に北九州市議会基本条例を制定いたしまして、市民との協働による開かれた議会の実現を目指してまいりました。この実現に向けた取り組みといたしましては、昨年まで9回にわたりまして、予算や決算審議の内容を皆様へ御報告する、議会報告会というものを開いてまいりました。しかしながら、その開いてきた場所が市民センターや生涯学習センターでありましたので、限られた市民の皆様方しか、この議会報告会を聞いていただくことができませんでした。

そこで、多くの議員の皆様方から、もっと開かれた場所で議員が何をしているのか、また、どういったことをこれからやっていかなければならないのかを、市民の皆様方に知っていただく、そういう場を設けてはどうかという提案がなされました。

本日は、このチャチャタウンという開かれた場で、皆様方にお気軽に飲み物でも飲んでいただきながら、議員と、そして今日はパネラーで高校生や大学生の若者たちが討論をするわけでございます。ぜひ、その討論の内容を楽しみに聞いていただければと思っています。

ちなみに、議員4人が今日登壇するのですが、高校生、大学生に討論で負けるようであれば、もう議員を交代してもらおうかなと思っていますので、それくらいの覚悟で、今日のパネラーの議員は頑張ってくださいなと思っていますところでございます。

また、本日の開催に当たりましては、北九州青年会議所の皆様方に大変御協力いただいております。青年会議所の皆さん、本当にありがとうございました。

この後、本市の課題の一つであります人口減少をテーマに、北九州市立大学の南先生の基調講演、そして、パネルディスカッションが行われますので、最後までお聞きいただければ幸いです。

最後に、現在、本市議会における定例的な海外視察につきまして、さまざまな報道機関

から、さまざまな報道がなされているわけでございます。このことを、私どもはやはり真摯に受けとめて、反省をしなければならぬと思っております。

しかしながら、海外視察に行かれました8名の議員の方々の名誉のために申し上げておきますと、テレビで報道されているのは、何か公務を9時間しかしていないということでございましたが、私の調査によりますと、六十数時間、最低でもされていたということです。それと、9月議会におきましては、このヨーロッパでの視察内容をもとにした質疑、質問が出されているということも、この場を借りて申し上げさせていただきたいと思えます。

しかしながら、たとえ自由時間といえども、公務で海外に出張に行っているわけですから、公職者としてふさわしい、節度のある行動を取る必要が、私はあると思っております。この点に関しては、反省すべき点が多々あったのではないかと考えておりました。今後、私は議長として綱紀肅正に努めることはもちろんでございますけれども、現在、幹事長会議でも、この件について話し合いが行われております。本当に、しっかりした北九州市議会を、これからもつくってまいりたいと思えますので、この場をお借りいたしまして反省させていただきたい。おわびを申し上げたいと思えます。本当に、申し訳ございませんでした。

結びに、北九州市議会というところは、北九州市の最高意思決定機関です。なかなか皆様方には、北九州市議会に触れていただく機会はないと思えますけれども、市議会議員の方々が、市民の皆様方の意見をもとにして、市議会で議論をされるわけです。そして、その議論をしていった結果を、市長が遂行することによって、北九州市政というものが動いていくわけであります。

そういう意味では、今回のこのカフェトークを契機といたしまして、北九州市議会の動きに関心を持っていただければ幸いです。

どうか今日は、議員と若者たちとの討論を聞いていただいて、北九州市のよりよい未来のために、これからも頑張ってください。よろしく願いをしたいと思います。

本日は、誠にありがとうございました。

○司会（讚井）井上議長、ありがとうございました。

続きまして、北九州青年会議所 大貝敏之理事長より、御挨拶をいただきます。

では、理事長、よろしく願いいたします。

北九州青年会議所理事長 大貝 敏之

皆さん、こんにちは。ただいま、御紹介をいただきました、私は一般社団法人北九州青年会議所理事長を務めております、大貝と申します。

まずは、本日、このように多くの皆様にお集まりいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。ありがとうございます。そして、お買い物中のお客様も、お時間が許します限り、お足をとめていただきまして、御覧いただくと幸いです。よろしく願い

いたします。

北九州青年会議所は、20歳から40歳の青年が、明るい豊かな社会の実現のために運動を行う団体です。皆様が御存じのところでお申し込みすると、わっしょい百万夏まつりをつくった団体です。ぜひ、御興味のある方は、お問い合わせいただきたいと思います。

さて、北九州の課題は何かと問われると、人口減少問題が一番に上がってまいります。北九州青年会議所といたしましては、進学、就職で北九州を去る若者が多いことが、一番の要因であると考えております。そこで私たちは、若者がまちについて考える機会、発言する機会、行動する機会、この3つの機会が必要であると考え、16歳から20歳までの若者が集う、北九州若者まちづくりサポーターを組織しました。

本日、その若者まちづくりサポーターと北九州市議会議員各会派の皆様で、生討論を行っていただきます。ぜひ、この生討論を通して、北九州には、まちの未来について真剣に考える市議会があるということを知っていただき、また、まちのために行動しようとする若者が多くいることを知っていただきたい。そして、本日、この生討論を通して、北九州の未来は明るいということを実感していただく、そんな機会にさせていただくことを願いまして、簡単ではございますが、共催団体代表といたしましての御挨拶に代えさせていただきます。

本日も最後まで、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○司会（讃井）大貝理事長、ありがとうございました。

これより、北九州市立大学地域戦略研究所 南博教授より、北九州市の人口動態についてをテーマに、御講演いただきたいと思います。

それでは南教授、よろしくお願いいたします。拍手でお迎えください。

基調講演

「北九州市の人口動態について」

北九州市立大学地域戦略研究所教授 南 博

北九州市立大学の南と申します。今日は、この後のパネルディスカッションがメインのイベントです。私からは、それに先立ちまして、パネルディスカッションの内容に関しまして、人口に関する基本的なデータを、手短かに話題提供ということで、お話をさせていただきます。恐縮ですが、座って話をさせていただきますと思います。

皆様、お手元に配布資料をお持ちでしょうか。開いていただくと、中にアンケートとかも挟まっているのですが、この外側の紙のところにグラフが何個か載っています。下に1ページと振ってあるところから、2ページ、3ページということで振ってあります。それを御覧いただきながらお聞きいただければと思います。ただ、どのグラフについて私が話しているのかというのが、若干、分かりづらいかもかもしれませんので、今どのグラフについて話しているのかというのは、私がボードをお示しいたしますので、それを参考にしてい

ただければと思いますが、このボードは手づくりで非常に質素なものですので、ぜひ細かな部分はお手元の資料のほうで御覧いただければと思います。

早速、説明に入らせていただきたいと思います。まず、1枚目のグラフになります。

日本の人口推移と今後の予測というグラフでございます。このグラフは、横軸が歴史の流れ、縦軸が人口数をあらわしています。今から400年ほど前、江戸時代の初めのころは、日本の人口は1,200万人くらいでございました。その後、社会が安定いたしまして、人口が倍増以上いたしまして、江戸時代の中に3,000万人台まで人口はふえました。それから、ことしでちょうど150年前の明治の初めにおいては、日本の人口は約3,300万人でございました。その後、人口は急増していくこととなります。

その背景には、日本の近代化ですとか産業革命というものがございまして。この産業革命には、この北九州も非常に大きく関わっております。北九州にできた官営八幡製鐵所がございまして、あるいはその他のさまざまな製造業、あるいは炭鉱ですとか、そういった非常に重要な役割を、この北九州地域が果たしたということになりますので、このグラフで急激に日本の人口が伸び始めた部分に関しましては、この北九州が日本全体に、非常に大きな貢献をしたということになります。その後、第二次世界大戦を経まして、戦後の高度成長期に、再び人口が急増するということとなります。今から50年ほど前の1967年、日本の人口は1億人を突破し、それから更に、人口は増加し続けるということになります。

しかし、その伸びは、今から10年前の1億2,808万人をピークにして、減少局面に入って10年たっております。現在、1億2,659万人まで減ってきています。そして、ふえてきたときと同じようなペースで、今後数十年かけて人口が放物線を描くように減っていくということが予想されています。皆様、御存じのことかと思いますが、日本全体が、大きな人口減少局面に入っているということになります。

それでは、2つ目のグラフです。北九州市の人口の推移についてでございます。

第二次世界大戦の終了時点では、当時の5つの市の合計は約60万人となっております。それまでふえてきていた人口が、戦後再びふえ始めて、1963年、昭和38年の五市合併時点では、約103万2,000人の人口ということになっておりました。合併後、しばらく人口は微増を続けるわけでございますけれども、合併から16年後、今から39年前の1979年の約106万8,000人をピークにして、人口が減少局面に入りまして、以降、減少を続けているという状態です。

現在の人口、今年の10月1日時点の人口が94万5,595人でございます。この約94万人というのは、合併前の今から60年前、1957年、昭和32年とおおむね同じ規模ということになっておまして、この60年間だけを見ますと、20年間かけて人口が12万人ふえ、40年間かけて12万人減ってきたという状況になります。

そして、グラフの右側に、今後の推計人口と記していますが、今後も人口が減少し続けていくということが推計されています。とはいうものの、一言で人口減少といいましても、全体のグラフだけではその領域がちょっとよく分からないという部分でございます。

そこで、3枚目のグラフでございます。北九州市の人口における、自然増減、社会増減の推移、配布資料では2ページ目になります。

この自然増減というのは、生まれた人の数から亡くなった人の数を引いた人数というこ

とになります。これは紫色の折れ線で示しています。それから、社会増減というのは、引っ越してきた人から引っ越していった人を引いた数ということになります。これは緑色の折れ線で示しています。それから、青い棒グラフは人口の増減数ということになります。昭和 50 年代の初めごろまでは、おおむね人口増の年が多かったわけですが、以降は、おおむね減少しておりまして、つまり、青い棒グラフは下向きの棒グラフになっている年が続いているということになります。

では、社会増減、緑色の折れ線グラフについて見ていただきますと、基本的には、長期的に見ると、この社会増減というのは改善傾向にありまして、特に、この 10 年くらいは社会増の状態、つまり、引っ越していった人よりも引っ越してきた人のほうが多い状態、そうした状態まであと一歩という状態にまでなっている。グラフの右端のほうを見ていただくと、ゼロに近づいているというのがお分かりいただけるかと思います。

そうした社会増減の状況が改善しているのにもかかわらず、なぜ近年、人口減少が続いているかということになると、紫色の折れ線グラフで示しました自然増減というのが、非常に大きく影響しているということになります。

昭和の時代は、社会減も非常に多くて、1年で1万人以上、社会減であった年もあったわけですけれども、このころは自然増も多かった。つまり、生まれてくる赤ちゃんのほうが増える方よりもかなり多かったという状況でございました。したがって、人口減というのはあまり進まなかったわけですけれども、その後、少子高齢化というものが進展をいたしまして、今から 15 年前の平成 15 年には、ついに自然減の状態。つまり、生まれてくる赤ちゃんよりも亡くなる方のほうが多いという状況です。そういう状況になって、現在は社会減よりも自然減のほう、北九州市において多いという状況になっております。

参考までに、平成 29 年の 1 年間で、北九州市で生まれた赤ちゃんは 7,349 人。亡くなった方は 1 万 1,171 人であり、自然増減の数がマイナス 3,822 人という状況になっております。

北九州市の人口問題の改善に向けましては、人口の自然動態と社会動態の両方に目を向けなくてはならないということになります。一方、中期的・短期的に、政策的に取り組みやすいのは、引っ越していく、引っ越していかないという社会増減の部分です。こちらのほうにもなるということはいえようかと思っておりますので、現在、北九州市では、議会、行政、民間企業、市民が協働して、この社会増減をいかにプラスに持っていくかという政策に、一生懸命取り組んでいるという状況になっております。

次からの何枚かは、社会動態とか自然動態について、今日のパネルディスカッションのテーマと、特に関係のありそうな部分について、基礎的なデータをお示しします。ここからは、少し短くなりますので、手早く進めさせていただきたいと思っております。

今、お示ししている 4 つの表は、北九州市の地方別転入・転出状況です。これは社会増減について、どの地方から北九州市に転入してきて、北九州市からどの地方に転出してきているのかを示したものです。

日本においては、長らくの間、東京一極集中問題がいわれています。その東京を中心とした関東地方と北九州の関係を見ますと、例えば、平成 29 年の 1 年間で、北九州市としては 1,458 人の転出超過、つまりマイナスということになっております。

一方、この表を御覧いただくと、その関東地方、東京とのやりとりよりも、もっと深刻な転出超過の状況があります。それは、福岡市を初めとする福岡県内の他市町村への転出ということになります。福岡県内の、北九州市以外の市町村から北九州市への転入は、昨年1年間で年間9,828人であったのに対し、北九州市からの転出は1万1,731人に上っておりまして、マイナス1,903人という状況です。九州内のほかの県ですとか、あるいは山口県からに関しましては、北九州市に転入してくる方のほうが多いという状況なのですが、それを上回る形で、福岡市などへの転出超過が続いているという状況にあります。

次のグラフですが、これは北九州市における年齢別の人口増減の比較です。配布資料は、最終ページになります。これは、平成22年から平成27年の5年間で、各年齢層がどれだけ増減したかというのを示しています。大きな特徴が2つあります。

1つは、緑色で唯一、上向きになっている部分です。15歳～19歳の部分です。いわゆる、大学や専門学校に入学したり、中学や高校を卒業して就職をしたりする方々の世代においては、北九州市では人口がプラスになっています。これは、北九州市内に、さまざまな学校や職場があるということが、人口にプラスの影響を与えているということを示しているといえようかと思えます。全国、ほとんどの市町村というのは、人口減に苦しんでいるわけですが、多くの市町村においては、この10代の後半において、大幅に人口減少になっている。高校を出たところで、大幅に人口減になるという傾向が多いのですが、北九州市では、ここが人口増になっているというのは非常に特徴的で、北九州の強みではないかといえるかと思えます。

もう1つの特徴は、20歳代を中心とした転出の超過でございます。学校を出て就職する世代、あるいは就職して、しばらくたった20代後半の世代、ここで大きく人口減少となっております。新卒者世代での人口減というのは、若者の就職希望先と、就職先がうまくかみ合っていない等の可能性がありますし、また、20代後半の結婚、出産をする人がふえる世代で、特に人口減が目立つというのは、居住環境が市民ニーズに合っていないとか、あるいは転職を考えた際に、受け入れ先が少なかったりする可能性があるといえようかと思えます。

それでは、3つ目のグラフに移ります。これは、北九州市内の学校卒業者の地域別就職先の調査結果ということになります。平成29年は、高校を出た方の12.4%、1,281人が北九州市内で就職をしておられます。高校、短大卒では34.5%、大卒では16%となっておりますが、この数値は進学者を含んだ数値です。高校生が高校を卒業するときに、進学する人も就職する人も一緒にした比率ですので、就職者の中で、北九州市内にどれだけ就職しているのかということを見たのが、右側に黄色く抜き出している部分です。

高卒の就職者の58.1%が北九州市内に就職しています。高専、短大卒は46.4%、大学卒は20.8%が北九州市内の就職者比率となっております。特に大学では県外に就職する方が55%以上に上っているというのが現状です。

現在、北九州市と下関市の全大学が協力いたしまして、COC+事業というものを展開しております。大学生が地域に関心を持ったり、地域の企業のことをより知るという取り組みを、地道に続けていかないといけないなと思っております。

最後になります。北九州市の年齢別の人口構成の過去、現在、未来という、いわゆる人

口ピラミッドです。左側から、昭和 40 年、真ん中が平成 27 年、右端が 2045 年ということで、青色が男性、赤色が女性を示していきまして、ピラミッドの下側が 0 歳、上が 90 歳以上というものになっております。

左から、真ん中、右と順に見ていただきますと、人口そのものが減っていく。グラフが細くなってきているということと、人口が多い層が、下からどんどん上にずれていっているという、まさに人口減少、少子高齢化というのが進展していったって、特に若い世代の人口減少が目立つというのが、非常に明らかだと思います。

こうした状況を踏まえて、どのような政策を講じていくのかが、北九州市の大きな課題になっているのではないかと思います。こうした点について、次のパネルディスカッションにおいて、深掘りをしていきたいと考えております。

私からの話題提供は、以上でございます。どうも、御清聴ありがとうございました。

○司会（讚井）南教授、ありがとうございました。貴重なお話だったと思います。

今、北九州は 95 万人を切ってしまいました。今からの若者を中心としたまちづくり、そして、10 年後、20 年後の北九州を考えていくために、これからのまちづくりをみんなで考えていく、今日のカフェトークはそんな場にしたいと思っております。

今から、カフェトークの準備のために、少しお時間をいただきます。その間に、意見シートというのが挟まっているかと思います。その意見シートに記入いただきまして、ディスカッションの後に御紹介させていただくか、もしくは、市議会議員全員に報告書として配らせていただきます。そして、必ず市政に活用させていただきますので、よろしく願いいたします。今しばらくお待ちください。

パネルディスカッション 「人口減少について」

○パネリスト

《北九州市議会議員》

小倉北区	佐藤 栄作
小倉北区	松岡裕一郎
門司区	奥村 直樹
戸畑区	荒川 徹

《北九州若者まちづくりサポーター》

九州大学 1年	木村 紗彩
常磐高等学校 3年	木元利早子
九州国際大学附属高等学校 2年	伊藤 尚希
小倉高等学校 1年	榎本 咲子

○コーディネーター

北九州市立大学地域戦略研究所教授 南 博

○司会（宇都宮）お待たせいたしました。これより、本日のテーマでもあります、人口減少についてと題しまして、パネルディスカッションを始めさせていただきます。

まずは、コーディネーター及びパネリストの皆様を御紹介させていただきます。

コーディネーターとして、先ほどの基調講演でも御講演していただきました、北九州市立大学地域戦略研究所 南博教授。

北九州市議会側のパネリストとして、佐藤栄作議員、松岡裕一郎議員、奥村直樹議員、荒川徹議員。

北九州の若者代表として、北九州若者まちづくりサポーターの、九州大学1年の木村紗彩さん、常磐高等学校3年の木元利早子さん、九州国際大学附属高等学校2年の伊藤尚希さん、小倉高等学校1年の榎本咲子さん。

以上の皆様で、パネルディスカッションを行っていただきます。

ここからの進行は、コーディネーターの南教授にお願いしたいと思います。それでは、南教授、よろしくお願いいたします。

○南教授 ありがとうございます。それでは、本日のパネルディスカッションですが、時間も限られていますので、2つの議論、テーマに絞って、パネリストの方々から、それぞれ御発言いただきたいと思っております。

1つ目が、人口減少及び高齢化の進展がもたらす課題について、もう一つが、北九州市が目指すべき将来の方向性について、という2つのテーマについて取り組んでいきたいと思っております。

それから、先ほど司会の方から御紹介がありましたけれども、会場でお配りしている資料の中に意見シートが入っておりますので、ぜひ皆様の意見をお寄せいただければと思います。いただいた御意見は、報告書にまとめて、全北九州市議会議員に配布するなど、議会のほうで御対応されるということのようです。

早速、1つ目の議論に入りたいと思います。人口減少及び高齢化の進展がもたらす課題について、どのようなものが想定されるのか。まず、若者の皆さんから御意見を出していただきまして、次に、それに対する市議会議員の見解を、1人3分くらいでお話をいただきたいと思っております。

最初に木村さん、人口減少及び高齢化の進展がもたらす課題として、どのようなものが想定されるとお考えなのか、お聞かせください。

○木村さん 御来場の皆さん、こんにちは。この場をお借りして、若者の代表として、このような機会を与えていただいたことに、とても感謝しています。今日は最後まで、よろしく願いいたします。

私からは、人口の減少、主に若年層の人口減少による、労働人口が減少したこと。それに伴う市政の税収の減少による、行政サービスの低下、また民間サービスの廃止というものを懸念しています。

例えば、公共交通の縮小や廃止が行われた場合、人口減少によって、学生だったり若者が減ってしまった。それによって、通勤、通学で利用する若者が減るということは、民間事業者の収益が減ってしまって、公共交通が廃止されるということが考えられると思うのです。

しかし、高齢化が進んだ北九州市では、自家用車を利用できない高齢者が、公共交通を利用するというのは大いに考えられることだと思います。そのバランスが取れなくなって、若者は減っているけれども、お年寄りが困ってしまうという事象が起こってしまったりだとか、例えば生活に関わることでしたら、医療機関が人口減少に伴って閉鎖されたり、廃止されたりしたことによって、医療機関に自由にかかれなくなるということが考えられます。高齢者が多くなることによって、医療費だったり、社会保障費がふえてしまうという悪循環が起きてしまう。対応できないところがふえてしまうのではないかとというのが、すごく懸念材料があると思っております。

○南教授 ありがとうございます。それでは、木村さんからの問題提起に関しましては、佐藤議員から、今の御意見を聞いていただきまして、賛成、反対、補足、どういったことでも構いませんので、議員の立場からの見解をお聞かせいただければと思います。

○佐藤議員 自由民主党無所属の会の佐藤栄作でございます。今日は、どうぞよろしく願いいたします。

1つ目のテーマですけれども、人口減少、高齢化の課題ということで、今、木村さんから、いろいろと御意見を述べられたと思いますが、人口減少、高齢化の最大の課題は、私は生産年齢人口比率の減少。生産年齢人口というと14歳～64歳、いわゆる、所得を生み出す年齢層が減少していくということが、人口減少、そして高齢化の進展に伴う最大の課題であると思っております。北九州市もこの生産年齢人口が、今大きく減少しているということで、簡単に言えば、支える人よりも支えられる人のほうが多くなるということであ

りますので、これをそのままにしておけば、やはり財政にも大きな影響があるのではないかなと思っておりますので、そこについては、生産年齢人口の方々をふやしていくという取り組みをしていかなければいけないのではないかなと思います。

それと、北九州市は100万都市として機能するようにインフラの整備などを進めてきたわけでありまして、現在、100万人を下回る人口になってしまったわけでありまして。ということは、市民一人当たりにかかる負担というのが大きくなっているということでもありますので、やはり人口減少社会に適応した効率のよい、そして、コストのかからない、そういう都市開発、都市経営をしていく必要があるのではないかと考えています。人口減少に合わせた最適化を、まちづくりとしてもやっていかなければいけないと思っております。

そもそもですが、人口が減ると本当に税収が減るのかと、あるいは、税収が減ると、本当に自治体の経営は成り立たないのかというところを、一度考えていく必要があるのではないかと考えています。

人口が減っても、例えば、民間の企業さんが生産性を向上することで、そこで働く方々の給与を上げることができれば、住民一人当たりの所得をふやすことにつながると考えます。そうなれば、人口が減っても税収が下がらないという可能性は十分にあるわけでありまして、今後は生産性の向上というところに力を入れていかなければならないと思えます。

生産性向上に当たっては、例えば、AIだったり、ロボットなどの先進技術を導入したり、あるいは、テレワーク、在宅勤務といったものを促進したり、兼業、副業といったものも促進して、働き方改革というものをしっかりやっていくことで、生産性というものを高めていくことは、私はできると思っております。

すみません、少し長くなりますが、それとあわせて、歳出の見直しも当然やっていかなければなりませんので、行財政改革というものも、極めて重要になってまいります。歳出の見直しは、効率のよい税金の使い方を進めるなどして、財政の均衡を図っていけば、持続可能な財政を実現することは可能だと思っております。

それと、行政サービスのあり方を見直していくことも大切だと思っております。例えば、公共施設や公共空間には、たくさん空いているスペースがございます。こういったところに、民間のテナントや民間の事業を誘致して稼いでもらう。その収益を、例えば、公共施設や空間の維持管理の一部として補っていくことで、これまでかかっていた行政コストを減少させていくということは可能でありますので、そういったことをやっていく。これは、民間のビジネスチャンスの拡大にもつながりますし、雇用の創出にもつながるものと思っております。

学校だったり、公共施設を合同して整理、あるいは、それを使用していく。今、北九州市も公共施設マネジメントという形で、こういった行財政改革を進めております。こういうふうに、人口減少にたえられる自治体の経営をしていくことで、私は健全な財政というものを、次の世代に引き継いでいくことは可能だと考えています。以上です。

○南教授 ありがとうございます。続きまして、木元さんのほうからお願いします。

○木元さん 常磐高等学校からまいりました、木元利早子と申します。本日はよろしくお

願います。

私からは、町内会、自治会の担い手が不足し、地域の歴史や伝統文化の継承が困難になるのではないかについて、少し考えを言わせていただきます。

小倉南区の、私の住んでいる地域では、少し前まではイベントをたくさんしていて、にぎわっていたのですが、最近、引っ越しをされる方が多かったり、イベントに参加する方が減少し、イベントも減ってしまいました。

人口減少、また高齢化が進んでいくにつれて状況が悪化し、今残っているイベントも、いずれなくなってしまうのではないかと考えました。以上です。

○南教授 ありがとうございます。それでは、松岡議員から、今の木元さんの意見に対する見解をお願いします。

○松岡議員 皆さん、こんにちは。公明党の松岡裕一郎でございます。

今、ご質問をいただきました木元さんから、小倉南区の事例を挙げて、町内会や自治会が行っていたイベントがだんだん減ってきて、高齢化に伴って、伝統文化といったものが困難になるという趣旨のお話をいただきました。

こういった自治会の担い手の不足や、文化継承が困難になるということは、まさに深刻な問題であると、私も認識していますし、議会の委員会は6つに分かれるのですけれども、そのうちの教育文化委員会も、今、このコミュニティのあり方ということで、まさにこの自治会のあり方や文化のあり方といったものがテーマになっております。

御指摘のように、自治会の加入率は、平成18年の78%に比べると、現在66%まで下がっており、また高齢者の方が脱退するケースが非常にふえています。そして、若い人も自治会に加入しない。また、引っ越して減少していく。こういったことも起こってきています。一方、文化、歴史の、例えば小倉祇園ですけれども、山車の数が少なくなっていく、そういったことも起こっています。

しかし、議会も行政も、こういったことにただ傍観するのではなくて、自治会加入促進の取り組みであったり、脱退防止の事例集を各自治会に配ったり、あとはPRであったりとか、マンション組合のほうへ自治会加入の促進をお願いしたりしています。

また、今年度から北九州市のホームページに、自治会加入のポータルサイトが立ち上がっていて、単身世帯で、どこに行っても自治会に加入したらいいか分からないという方に向けて、そのポータルサイトを開いて、自分の個人情報を入力すると、自治会に加入できるという、こういった容易に加入できることを対策として取り組んでいます。

まだまだ、これはPRができておりませんで、直近のデータでは2,000件のアクセスと、自治会に加入した例は15件しかないということで、非常にこれはブラッシュアップであったりとか、PRが必要だなと。皆さん、ここにお集まりの方で、もし、地域の方で自治会に加入していない方に、こうやってポータルサイトから自治会に加入できるんですよとPRしていただければと思いますし、広げていただきたいと思います。これに対しては、行政も議会も全力で取り組んでいきたいと思っております。

また、文化の点においても、北九州市は本年、文化庁から、東アジア文化都市ということで選定を受け、2020年のオリンピックイヤーに、日本と中国と韓国の3カ国の文化の大臣会合が北九州市で行われて、その柱の一つに伝統文化が挙がっております。こういった

伝統文化に、光を当てながら、しっかり議会としても、また北九州市としても取り組んでいきたいと思います。

私自身もそうですが、まず身近なところから、ここにお集まりの一人一人が自治会の加入であったり、PRをしていただいて、未加入の方は加入していただく。また、友人、知人にも自治会って本当に素晴らしいところだよと、また、文化、芸能、祭りはいいんだよというのを広げていただきたいと思います。

身近な例で、私が住んでいる小倉北区の中島校区ですけれども、小倉祇園太鼓を見て感動した神戸の50代の方が、小倉祇園太鼓をたたきたいがゆえに、夫婦で北九州市の中島校区に移り住んでいただくということも、私の校区の中で起こってきていたり、単身の女性が、こんな自治会楽しそうだといいことで入って、生き生きと活動している姿があります。

ですから、大きな施策も大事ですけれども、一人一人が身近に、友人に、また地域の方に、また親戚に語っていくことが、この自治会の加入や伝統文化の担い手の継承につながっていくのではないかと考えております。私自身もそういう気持ちで、全力で取り組んでいきますので、皆さんもよろしくお願いします。以上です。

○南教授 どうもありがとうございました。続きまして、伊藤さんのほうからお願いします。

○伊藤さん 御紹介賜りました、九州国際大学附属高等学校の伊藤尚希と申します。よろしくお願いします。

私は以前、地域批評本である、これでいいのか福岡県北九州市という本を読みました。こちらに取り上げられていた内容について、お伺いしたいと思います。

とある統計結果によりますと、北九州市から、主に福岡市や東京都に移り住んだ方で、若者が特に多いとのことでした。なぜ北九州市から福岡市や東京都といった、ほかの大都市に移住してしまうのでしょうか。それは都会的なイメージからの憧れなのでしょう。よろしくお願いします。

○南教授 ありがとうございます。次は奥村議員から、ただいまの伊藤さんの意見に対する見解をお願いします。

○奥村議員 御意見ありがとうございました。北九州市から福岡市や東京、大都市圏域に移住する方が一番多いということで、それが問題、それは議会でもよく出てくる話題であります。

まず考えていただきたいのは、北九州市だけがそういう状況なのかというのが一つ。北九州市だけが、ほかに比べて確実にそうであれば、それはそれで一つ原因を探っていかなければいけないのですが、恐らく、これはどの都市でも同じことがいえるというのが、1点前提としてあると思います。

ただ、北九州は、例えば全自治体の中で人口減少数が第1位ということで注目を受けるわけですが、私も実は、伊藤君と同じ九州国際大学附属高校を出ているわけですが、高校を出てから東京に行ったのです。その時は、あまり明確な目標とかあったわけではなかったのですが、何となく東京に行けば何かあるのではないかと、正直ぼやっとしたイメージで行きました。

先ほど南先生の話にもありましたが、特に人口レースの大きな問題となる一つの世代は、

20代後半という話があったと思うのです。その20代後半の方が、東京や福岡に行く場合と、高校を出て行く場合では、少しイメージが違っていると思っていて、何となく夢を追いかけてとか、何かあるのではないかなと思っていく場合と、20代後半になって行く理由の一番は北九州に仕事がない。先ほど言った、転職先がないとか、就職先がないというのが大きな問題だと思います。当然、仕事があると思われる福岡や東京へ出て行くという、やはりこれが課題ではないかなと。例えば、イメージが悪い。北九州市のイメージは、確かにいいとはいえないかもしれませんが、住んでいけば、多分今日、来られている皆様も、北九州はそんなに悪くないよと思っているはずなのです。だから、イメージが悪いから出て行くわけではないでしょうが、恐らく一番課題のところは、出て行きたくないけれど出て行っている。

こういう人たちをいかにとどめるのかという大きな課題は、この仕事、雇用のところではないかなと思います。雇用のところも、これも先ほど出ましたけれども、非常に大きな課題だと、私も最近、大学生や高校生と話していると思うのは、仕事に対するイメージのミスマッチというか、こういう仕事をしたい、こういう大人になりたいというのと、実際に働いてみるイメージがあまりにも違うのではないかなと。

北九州の場合は、御存じのように製造業が非常に多いとか、あるいは高齢者が多いので、介護の仕事が非常に多いのですけれども、そういった業界では人が足りない、人が足りないと言っている中で、若い方々は自分に合う、求める仕事がないと出て行ってしまっている。ここの結びつけが必要なのではないかなと。

先ほど、佐藤議員がおっしゃっていましたが、これからAIとか、ロボット、ITが進んでいくと、恐らく、そういうミスマッチを埋めていくこともできてくるのではないかなと思っています。そうすると、北九州でまた新しい仕事が創造されたりとか、つきたい仕事につけるということ、これからつくっていかねばいけないのではないかなと思っています。先ほど言った書籍も、非常に悔しい思いを、私も他の議員もしているわけですので、イメージアップも大切だと思いますし、実際に移り住んでいく理由、なぜ出て行くのかということ、もっともっと調査をしていくべきかなと思っています。

実際、アンケートを見ると、50歳から住みたいまちで1番になったり、子育てしやすいまちのランキングでも1位になったりしているわけですが、それが今、若い世代には響いていないのがあると思うので、そこで若い世代の求める理想というものと、後はこのまちの魅力を、私たち大人が、もっと若い人たちに伝えていかなければいけないのではないかなと思っています。

具体的な課題は、多分、この次の議論2のほうになると思いますので、また、引き続き議論させていただければと思います。終わります。

○南教授 ありがとうございます。次に榎本さんからお願いします。

○榎本さん 小倉高等学校1年の榎本咲子です。よろしくお願いします。

私が考える課題としては、現在、北九州市の福祉、医療費は年々増加していますが、高齢化や人口減少が進み、歳入も減少傾向にある中でこの増加は課題だと捉えました。

また、若年層の人口減少に伴う働き手の減少によって、生産性の低下を引き起こすことも課題であると考えました。以上です。

○南教授 ありがとうございます。それでは、荒川議員に、ただいまの榎本さんの意見に対する見解をお願いしたいと思います。

○荒川議員 日本共産党の荒川徹でございます。どうぞよろしく願いいたします。

榎本さん、意見発表ありがとうございました。

私は、人口減少及び高齢化の進展がもたらす課題についてという、第1のテーマについて考える際に、まず基本的なところで認識を一致させる必要があるのではないかと考えております。

それは、高齢化が進むということについては、後ろ向きに捉えられる傾向があるのではないかと。そうすると、やはり高齢者にとって、非常に肩身が狭い思いをさせられる、そういう場面が、今あるのではないかと思うのです。

それで、憲法に基づいてつくられております老人福祉法では、高齢者は長年にわたり、家族と社会のために尽くしてきた人たちであると。そして、社会の進展に寄与してきた者、豊富な知識と経験を有する者ということで、敬愛されるとともに生きがいを持って、健全な、安らかな生活を保障されるものであると規定されているわけです。

そういう点から見ますと、今、私たちのところにもさまざまな声が寄せられていますが、例えば、医療や介護の負担が非常に重たいと。あるいは、年金制度で生活できない、非常に貧弱なものであると。また、障害者の施策についても、いろいろな課題があるということをやや聞くわけですが、そういう点では、今、北九州市は人口の高齢化率30%を超えていると。先ほど、人口が95万人を切ったということでしたけれども、いわゆる約27万人の方が65歳以上で、全体の3割を超える市民の皆さんの声をしっかり受けとめて、市政をやっていくということが重要ではないかと思うのです。

それで、これは市だけではできない、国の制度に関わる問題もありますので、行政も、我々市議会としても、制度の改善や充実について、国に大いに意見を上げていくことが必要だと思っておりますし、それは我々の本当に重要な仕事だと思っております。

高齢化社会対策をもっとやってほしいという声は、今年も皆さんから市に出されている要望の第1位なのです。6年連続して第1位という状況ですから、3割を超える市民の皆さんの、この切実な声にどう応えるかというのがこれからの課題であると思っております。

一つは、先ほど社会保障費の増大という、これはまた現実問題ですが、日ごろの健康の維持に向けたさまざまな取り組み、病気の予防や早期発見、それから、健康寿命というのが今、話題になっておりますけれども、健康寿命の延伸とか介護予防、そういう中で、ボランティア活動への参加を含めた一人一人が生きがいを持って、日々の生活を送っていきけるような、そういう対策を本当にやっていくことが大切ではないかと思っております。

そういう点で、今、榎本さんから出されたような、生産性の低下という問題についても、今、元気な高齢者の方がたくさんいらっしゃいます。日本の、いわゆる財界の中心であります日本経団連の会長が、今月の会見で、マクロの観点から見れば働く意欲があり、さまざまな対応が可能で、実際、新しいことにも取り組んでいる高齢者が従来よりふえているという、そういう受けとめ方をしておりますので、やはり官民を挙げて、そういう皆さんが、本当にしっかり自分の技術や生きがいを持って過ごしていける環境づくりというのは、非常に大事だと思っております。

少し長くなりましたけれども、以上であります。ありがとうございました。

○南教授 ありがとうございました。今、4人の若者、4人の市議会議員の方から、さまざまな課題があるということとあわせて、その課題に関しても、いろいろな視点があるのだなということをお話しいただいて、それが改めて明らかになったのかなと思います。

2つ目の議論に入っていきたいと思います。

北九州市が目指すべき将来の方向性についてということです。今、1つ目のテーマで、人口減少と高齢化がもたらすさまざまな課題が挙げられたわけですがけれども、その影響をできるだけ小さく抑えるといったこととか、あるいは、まちの活力を維持するということに関して何が必要かということ。更に、北九州市が目指すべき将来の方向性について、パネリストの方々から具体的な方策ですとか、考え方等についてお聞きしていきたいと思います。

では、この議論の2つ目についても、まず木村さんからお願いします。

○木村さん よろしくをお願いします。私が北九州の目指すべき未来と考えているのは、福岡市と北九州市は近いけれども、若者的な人気といえば、やはり福岡市のほうが高いように、私は大学が九州大学の伊都キャンパスなので、福岡市に通っていて、とても感じるところがあります。

では、福岡市と北九州市は、それぞれよさはあると思うのですが、その中でも若者に北九州にとどまってもらうためにはどうすればいいかというものが考えられたら、すごく北九州市にとって有益なことではないかなと思っているのですが、北九州市は、昨年、住みたい田舎ベストランキングで1位になったことも、皆さんの印象が強いのではないかと思います。でも、その1位になった裏側というのは、老年人口、若い世代ではない、お年寄りの方々の人気で1位だった。そして、総合部門で1位だったということで、結局、若者からは人気がなかったというのが読み取れると思うのです。

でも、世帯を持っている方々に人気があるということは、若者が家族を持って、どこで仕事をしようか、家族を持ってどこで住もうかと考えたときに、働いている世代の方々に人気があって1位になったということは、北九州がいいのではないかと、選んでもらえる魅力がきっとあるはずだと思うのです。

それで、福岡市とどう争うかというのを考えるのは、私は重要ではないと考えていて、福岡市は福岡市で、福岡県の中ではトップのまちだと思っているのですが、それとどう争うかではなく、福岡市とは違う魅力をどう打ち出していくかが、北九州市は大事だと思っています。

北九州の議員の皆様も多分、頑張っていらっしゃると思うのですが、例えば福岡市だと、スタートアップのまちだよねとか、〇〇なまち、若者にインスタ映えするところがいっぱいあるまちだよねと、全国の方に聞いても、すぐ答えていただけていると思っていて、私も実際に、九州大学の起業部というところでスタートアップをやっているのですが、そのかわいでもすごく学生が多くて、18歳、19歳、20歳の若者と一緒に活動できる場面がすごく多いのです。

一方で、私が北九州市から学校に通っていて思うことは、やはり、若者が何かをしようという、その活力が福岡市に比べて少ないのではないかと考えています。

北九州市でも、〇〇なまちだよねというふうに、若者が、ああ、こういうまちなんだ、北九州、いいところだなと、一言で気づけるような印象づけが、まず大事なのではないかなというのが一つ。では、それをどうやっていけばいいかということを考えると、やはり若者は、福岡市だったり、東京、大阪にすごく目を向けがちで、老年人口はふえていくけれども、若者の人口は減っていくというのが問題で、先ほど佐藤議員も1つ目の回答で、AIを取り入れたらいいのではないかとお話をされていたのですが、私はそこで一つ疑問があって、本当に高齢人口がふえていく中で、AIを導入したときに活用できるのか、議論の余地があると思っています。

例えば、今、アマゾンとかがAIを導入して、宅急便ではなく、ドローンを使って配達しようとしていると思うのですが、それだったら、高齢者の私のおばあちゃんとかおじいちゃんの世代の人たちは、それで本当に豊かな生活ができるかということ、私は違うかなと思っています。

では、それを本当に、どううまく解決していくかと考えたときに、私もそこに議論の余地があると思うのですが、移民の受け入れを議論していくこともいいのではないかなと思っています。もちろん、移民という言葉を知ると賛否両論あると思いますし、メリットだけではなくて、デメリットのほうが大きいこともあると思います。私も、一概に賛成とは言えない立場ですが。しかも、北九州市はSDGs、国連が定めている持続可能な開発目標を推進している都市であるので、もし、海外の若い世代を働き手として導入するならば、それを議論するならば、どういう条件にすると議論の余地があるのか、どういう条件をつけるなら、議会として導入を考えられるのかというものをお伺いしたいなと思っています。

参考として、台湾の事例をお話しさせていただきたいと思います。

皆さん御存じだと思うのですが、台湾は独自の移民の受け入れ方式をとっていて、産業も経済も地理ともに、日本と大体同じなのです。島国というのも一緒です。でも、台湾はすごく若者が減っていて、高齢者の方がすごく多いのですが、移民といたら少し語弊があるかもしれないけれども、海外からの労働力を入れることによって、高齢者の介護だったり医療サービスに、大体、高齢者1人に対して、確かではないのですが、2~3人の働き手がいるといわれています。そうすることによって、台湾はすごく、若者は自分のしたい仕事をしようと。そして、経済を回していこうと。それで、今まで働いてもらった高齢者の方々には、そういうケアをしていこうと分担をしている社会だと思っています。

でも、移民の受け入れには、歴史的背景もすごく考慮しないといけない部分があるので、もし、SDGsを推進している北九州市が移民のことを議論するならば、どういう条件をつけて議論していったら、どういう条件であればやっていくことができるのかという、議会側の御意見をいただきたいなと思っています。よろしくお願いします。

○南教授 ありがとうございます。それでは佐藤議員に、ただいまの木村さんの考え方に対する議員としてのお考えですとか、アドバイスなどがあれば、お聞かせいただければと思います。

○佐藤議員 ありがとうございます。今、いろいろと御意見をいただきました。

その前に、先ほどの財政的な問題について少し補足させていただきたいのですけれども、先ほどは生産性の向上とか、行財政改革で歳出を見直していく、都市の最適化を図ってい

く、そういう税の使い方についてのお話をさせていただきましたけれども、やはり健全な財政というものをつくっていくには、一方で税収をふやしていくということが重要かなと思っております。そのためにも、例えばインバウンドの促進をして、交流人口をふやして、外からたくさん人に来てもらって、この北九州でたくさんお金を使ってもらう。そういう消費を拡大する。または、税収をふやしていく、そういった取り組みも北九州市はやっていけないといけないし、今、力を入れているところであります。

そういうことをやっていくことで、生産性を高めて、稼ぎを拡大することで、かつ、都市経営にかかるコストを下げることであれば、人口減少においても、健全な都市というものを維持できるわけであります。

何を言いたいかといいますと、要するに自治体の人口が多ければ多いほどいいというものではないということです。一方で、人口の構成については極めて重要で、先ほど木村さんからもありました、若い世代が北九州には少ないのではないかということがありましたので、やはり、その所得を生み出す生産年齢人口である若い世代、こういった方々に、北九州でしっかりと仕事をしていただいて、定住をしてもらう、それを誘導する政策は必要だというふうに思います。

例えば、大学や学部を充実させて、若くて優秀な人材を北九州に集めてくる。あるいは、最近の若い方々ですけれども、職住近接といって、職場と住んでいるところの距離が近いところを好む。1時間も2時間も職場に行くために通勤時間がかかるような、そういう暮らし方、働き方ではなくて、住んでいるところと職場が近いと。自転車だったり、歩いて行ける、そういう職住近接というライフスタイルを好む若い方々がおられますので、そういった若い世代にターゲットを絞って、北九州もやっていかなければいけないと思っています。

それと、先ほど移民のお話がありました。近年、本当にさまざまな業種で人手不足が問題になっていまして、労働人口の問題があります。北九州も、それは本当に大きな課題として捉えておりまして、地元企業さんも本当に人手不足等で悩んでおられます。ただ、移民については、これは国民的なコンセンサスが必要になってくると思います。イギリスのEUの離脱だったり、世界中でこの移民に関して、大きな問題になっているところがあります。一方で、国も今、移民の問題については、国会で議論をしているということでありますので、移民については、今後は国の議論を待っていく必要があるのではないかなと思います。

だからといって、北九州は何もしなくてもいいのかというわけではないと思います。実は今、北九州市は海外からの留学生が非常にふえております。ただ、残念なのが、その留学生の多くが、仕事をする際に市外、県外に出て行ってしまっているという状況があるわけでありまして。こうした留学生の方々に、ぜひ、北九州で働いてもらって、定着をしてもらう。それを誘導する政策をしっかりと打っていかなければならないと思っていますし、北九州市は今年度、新規で予算もつけまして、こうした留学生に対する就職の支援であったり、生活の支援、さまざまな支援をするように、投資をするように決めておりますので、移民とは言いませんけれども、海外からの留学生にしっかりと活躍をしてもらえる、そんな環境を北九州は、今後つくっていかなければならないと思っています。

多様性のある都市というのは、都市の魅力につながると思っていますので、今後もこうした多様性のある北九州を目指していかなければならないと思っています。

最後に、〇〇なまち北九州ということで、何か印象づけが必要ではないかという御質問だったのですけれども、確かに、それはそのとおりだと思います。

今、北九州市は新しい産業をつくり出そうと努力をしています。その一つが、若松の響灘での洋上風力発電、これはもう、国内で自然エネルギーの一大産業拠点です。こうした新しい産業に今、力を入れております。また、MRJ、少し先行きがどうなるか分かりませんが、今、三菱がやっている航空機産業、それに関連する産業を北九州は集積させていこうということも考えております。

もう一つはビッグデータ。昨年、北九州市議会は、官民データ活用推進基本条例という条例を制定しました。これは、ビッグデータを活用して、効率のよい行政であったり、市民サービスを向上させていこう、そして、新しいビジネスをつくっていこうというものです。北九州市として、今後、こうしたデータに関するベンチャーの育成だったり、データサイエンスと呼ばれる、データを分析する仕事、こういう専門的な分野の人材育成といったことも、北九州は力を入れていく必要があると思っています。

福岡とまた違う形かもしれませんが、北九州市もこうした新しい産業を新たにつくっていくことで、印象づけはどうか分かりませんが、もう一度、世界に冠たる北九州というものを示すことができると思っていますので、これはピンチではなくチャンスでありますので、前向きにこうしたことを一つ一つやっていきたいと思っています。

○南教授 ありがとうございます。それでは、木元さんのほうからお願いします。

○木元さん 私は以前、志望している進学先で模擬授業を受ける機会がありまして、公共交通機関の利便性について議論しました。利便性を考えたときに、料金が少し高く、利用しにくいという話が多く出ました。

そこで、海外の中心地では、都市巡回バスという、郊外から中心地へ無料で移動できるという便利なバスがあると聞きました。無料にするには税金がたくさんかかりますし、市民の理解も得られなければ、するにしても難しいという話はあったのですが、本市でも導入できれば、便利になるのではないかと考えました。

○南教授 ありがとうございます。それでは、松岡議員から、ただいまの木元さんの御提案に対して、コメント等をお願いします。

○松岡議員 木元さん、ありがとうございます。先ほどの自治会の加入であったり、伝統文化の継承であったり、やはり義務ではないから議会も行政も悩んでおり、地道なところで、皆さん広げてくださいというところなのですが、これが確実でもありますし、行政も全力で、議会も全力で頑張っていますので、その点は補足させていただきたいと思いません。

2番目の公共交通の利便性について、ことしの12月から来年の2月末まで、小倉都心部巡回バスというのを実証実験で走らせます。これはニュースでありまして、西鉄バス北九州と北九州市と受託事業者が観光庁の事業にのって、これを走らせることとなります。JR小倉駅、アミュプラザ、チャチャタウン、リバーウォークもあります。そして、黄金町、TOTOミュージアム、小倉城です。こういうところを巡回させるバスを、1時間に

2本走らせることを予定しております。また、料金は無料がいいのですけれども、100円程度になるかもしれません。まだ値段は出ていないのですけれども、観光庁の事業予算から出るようになっていきます。

この実証実験で、事業可能性があると西鉄バスさんが思えば、これがずっと続くということになっております。観光客のみならず、一般市民でも利用可能ということですので、ここにいる方、ぜひこれを利用していただいて、ぜひ事業化の方向にかじを取って。何しろ、先ほど木元さんからも御指摘があったように、財源、市民の理解も必要です。市民の税金をどうするか。こういったことにもなりますので、ぜひ皆さん、御協力をお願いしたいと思います。議会としても、財源獲得のために、努力を全力で尽くしてまいりたいと思っております。

○南教授 どうもありがとうございます。続きまして、伊藤さんお願いします。

○伊藤さん よろしく申し上げます。先ほど、奥村議員がおっしゃったように、北九州市はやはり、雇用の問題、特に、若者が就職しやすい企業や大学が少ないというのが、なんとなく分かりました。

そこで、例えば、若者が就職しやすい、したい企業や大学の誘致を行えば、人口流失の防止、はたまた、若者の人口増加が期待できると、私は考えました。そこで、東京や福岡市のような、若者が実際に考える、住みやすいという環境を整えるための策、及びその情報の発信を行っていくことが必要だと考えました。

そのためのこれらの事業は、現在、市議会で特に議論は行われているのでしょうか。

○南教授 奥村議員、ただいまの伊藤さんの考えに対するコメントをお願いします。

○奥村議員 雇用につきまして、御提案いただいたのは、若者が就職したい企業などを誘致してはどうだろうということでした。

私は今、小中高・高専の学校に出向いて、キャリア教育というのに参加しているのですけれども、その中で子供たちと話して思うのは、例えば、大学生になれば、何の職ではなくて、だんだん企業名が出てくるわけですが、どうしても有名企業が当然ずらっと出てきます。それをもってくるというのが現実的かということ、それはなかなか難しい。議会と行政が今、一生懸命頑張っているのは、地元の中小企業とのマッチングということで、要は、みんなは知らないかもしれないけれども、こんなに素晴らしい企業が地元にあるのだよということをやっています。しかし、なかなか、そこがまだまだ結びついていないのかなというのが一つあります。

それと、この職につきたい、何になりたいと、みんな思うのですけれども、これからの時代というのは、多分、何の職とかではなくて、何をするかというのが決まっていないと、結局3年でやめてしまったりとかいうのがすごく多いのも問題です。時代が時代で、先ほどから出ているように、AIとかITが進化していけばいくほど、恐らく、1つの仕事に一生つくというのが、なかなかできない時代が来るかもしれないということを考えたときに、やはりキャリアに対する考え方とか、働くという、何とか屋さんとか、何とか業ではなくて、何のために働くのかみたいところから、若いうちに考えていくということも重要ではないかと、私は思っています。

働くということとか、ここで仕事をするというのはどういうことだという現実的なこと、

仕事の中身の具体的なことが分かれば、多分、視野が広がって、地元の企業をもう一回見直してくれるのではないかと私は思いますし、そういうのがないままに就職活動に突入してしまうと、どうしてもイメージで入ってしまうのではないかと。都市の北九州市のイメージアップも必要ですけれども、今言った、仕事とか企業とかのイメージも一緒に上げていくことが、すごく重要なのではないかなと思います。企業を引っ張ってくるのも一つですが、そこをほかの都市と競争して引っ張りあうというよりも、今このまちにあるものをどう生かしていくかという形をうまくできたら、私はいいのではないかなと思っています。

○南教授 どうもありがとうございます。それでは、榎本さんのほうからお願いします。

○榎本さん よろしくお願いします。北九州市の活力を維持するために必要なこととして、政令市の中で、高齢化率が北九州市は最も高いということに目をつけて、先ほど荒川議員がおっしゃったように、元気な高齢者が働く場所をふやすことが必要ではないかと思えます。

また、北九州市は他県、他地域に比べて、比較的、地震などの自然災害が起こりにくいという立地を利用して、企業の誘致を促進することも一つの手だと考えました。

また、全体的に、課題を課題として捉えないような社会づくりが必要だと考えます。

○南教授 ありがとうございます。それでは荒川議員、ただいまの榎本さんの考えに対するコメントをお願いします。

○荒川議員 榎本さん、ありがとうございます。私も、榎本さんがおっしゃった意見は、とても大事なことだと思います。

高齢者がたくさんいらっしゃるということプラス思考で、これをむしろ大いに売り込んでいこうとか、それを生かしたまちづくりを進めていこうということは、非常に大事な考えではないかと思えます。

先ほど紹介しましたように、老人福祉法では、豊富な知識と経験を有する者ということですから、しかも、企業も、財界のいわゆる経団連の会長さんも、働く意欲があり、さまざまな対応が可能で、実際、新しいことに取り組んでいる高齢者が従来よりふえていると、そうした高齢者に働く機会を提供できるように、環境を万全に整えていくことは重要であるとおっしゃっているわけです。

企業サイドでそういう努力をしていただくということとあわせて、行政としても、シルバー人材センターの取り組みを更に強化するとか、いわゆる高齢者の就労の場の確保のために、さまざまな活動をしている団体に対する市の支援を行っていくとか、そういう取り組みが必要ではないかと思えます。

そういう点で、高齢者が多いまちということ、むしろプラスに捉えて、このまちに住んでいらっしゃる方が安心して生活できる、生きがいを持って生活できるまちづくりを進めていくことが必要ではないかと、今の榎本さんの意見をお伺いして考えたところであります。

○南教授 ありがとうございます。今、2つのテーマについて議論をしてみました。若者の皆さんが、本当に、しっかりと北九州の課題ですとか、今後こうあるべきということを考えておられますし、また、市議会でもさまざまな検討が行われている、あるいは、議員お一人お一人が、さまざまなアイデアを持っておられるということがうかがい知れた

のではないかと思います。

今、2つのテーマについて議論をしてきたところですが、これまでの議論を踏まえて、各パネリストの皆様から追加の御意見とか、それぞれのお話を聞いていただいている感想などを、1人2分くらいで、まず若者の方から4人お話をいただいて、次に市議会議員の方から4人お話をいただければと思っています。では、木村さんからお願いします。

○木村さん 先生方、ありがとうございます。今回の議論で一つ感じたのは、まず1つ目の議論、私が話をさせていただいたことですが、労働人口の減少に伴って、税収が減少してしまうというので、佐藤議員は、それだけでは減少しないのではないかと、という御意見をいただいたのですが、それに伴って、もう少しお聞きしたかったのが、先ほども言いましたとおり、公共交通の撤退や縮小が行われるのではないかと懸念についてです。

先ほど、松岡議員から、巡回バスが走るということもニュースとしてお伝えしていただいたのですが、それが今後、労働人口が減少して、税収が一概に減るとは言いませぬけれども、そういう立ち行かなくなったときに、果たしてそれが続くのかどうかという、佐藤議員の個人的な見解で大丈夫ですので、聞かせていただければと思います。

○佐藤議員 木村さん、ありがとうございます。今、交通インフラの話がされたと思うのですが、一義的には民間の事業でありますので、民間の事業者の考え方というのが優先されるのだらうと思いますが、過疎地だったりとか、山の上にあつて、買い物に非常に難儀をしているという方々に関しては、やはり税金を投入して、今、北九州市は、おでかけ交通という制度もありますので、そういったところで公民が連携しながら、互いにフォローしていく必要があるのではないかなと思います。

あわせて、これは民間の話になりますけれども、北九州市は市営バスがまだ走っていますので、その分野においても有効なのかなと、アイデアとしてあるのですが、貨客混載、要するにお客さんと荷物を同じバスで運ぶことで生産性を高めるという取り組みも今、各地で少しずつですが、出てきておりますので、そうやって、何とかして生産性を高めながら、市民生活に必要なニーズに応えられるようにやっていくしかないのかなと思っています。

○南教授 ありがとうございます。次に木元さんお願いします。

○木元さん 私からは、感想みたいな感じになるのですが、先ほど教えていただいた小倉巡回バスが、これからも持続すればいいなと思ったのと、先ほど話ができなかったのですが、ドイツでは、バスやモノレール、JRがそれぞれお金がかからずに、1本でつながっていて便利という話も聞きました。無駄にお金がかからずに済むから、それもこちらのほうで導入できたらいいのではないかなと思いました。

○南教授 ありがとうございます。恐らく、また松岡先生のほうで、もし、今のことに対するお答えがあれば、また後ほどお話をいただければと思います。

それでは、次に伊藤さんお願いします。

○伊藤さん 自分も同じ感想みたいな形になるのですが、先ほど奥村議員がおっしゃった、北九州市にある中小企業の魅力の発信というのが大事だと思いました。私個人の感想なのですが、北九州といたら、例えば、安川電機さんやTOTOさんといっ

た大企業が目立つと思います。それだけに限らず、北九州市はこんなに素晴らしい中小企業があるのだよと。この中小企業がいるからこそ、北九州の産業は成り立っているのだよという情報発信が大事だと思いました。

○南教授 ありがとうございます。それでは、榎本さんお願いします。

○榎本さん 私も感想のような形になるのですが、私は今まで、高齢化にマイナスなイメージを持っていて、高齢化が進むと生産性の低下や働き手の減少につながると考えていたのですが、荒川議員がおっしゃったように、元気な高齢の方々も多くいらっしゃるのです、そのような高齢の方々と若者とが、一体となるまちづくりを行っていったらいいなと思いました。

○南教授 ありがとうございます。次に佐藤議員からお願いします。先ほどののでよろしいですか。全体を通しての感想がもしありましたら。

○佐藤議員 感想というか、もう一つ言いたかったのが、先ほども木村さんから質問があって、北九州はなかなか若い人の活力がという話があって、確かに、北九州市はもっと若い世代に刺さるような、そういう産業とか取り組みをやっていかないといけないのではないかと思ったのです。

今、いろいろな人の、生活するスタイルというのは、本当に多様化しています。人々が生活するに当たって、例えば、余暇の過ごし方とか、趣味だったりとか、遊びとか、いろいろあると思うのですけれども、そういった趣味だったり、遊びに特化した商品とかサービスをつくっていく。いわゆる、ライフスタイル産業みたいなものを北九州でつくっていったらなど。北九州は本当に、海とか山とか川とか、都心から少し行けば大自然があるので、こういう新しいライフスタイルに特化した産業というのをつくっていく。そういうことで、若い世代に刺さるようなまちをつくっていききたいなと思いました。

○南教授 ありがとうございます。それでは、松岡議員お願いします。

○松岡議員 木元さんから、さまざま御指摘いただいた課題、また交流人口、また観光地としての北九州ということで、公共交通政策ということで御提案いただきました。やはり財源をどう確保していくか。ここが重要な課題であると思います。

福岡市、福岡県が今、宿泊税とか検討していますけれども、まだ結論が出ていませんが、ここまでしていいのかという論議もあります。北九州市は今、そこまでしておらず、着実にインバウンドも観光客もふえていますので、これをどう経済効果につなげていくか。まず、ここが先だと思っていますし、交流人口がふえることによって、若い人が北九州に住んでもらいたい、住みたいというまちをどうするかという、ここに全力を挙げていきたいと思っています。また議会としても、私としても頑張っていきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

○南教授 どうもありがとうございます。それでは、奥村議員お願いします。

○奥村議員 今日は、本当にありがとうございます。私は、自分自身への戒めも込めて、皆さんにお願いというか、お話をしたいのは、今日聞いていて思ったのが、人口減少という考え方にしても、仕事だったり高齢化、いろいろなことが結構、固定観念とか先入観がすごく強いなと感じました。

前もそういう話をしたことがあるのですが、恐らく、今日出てこられたのは優秀な皆さ

んでございますから、たくさん勉強もされていると思うのですけれども、教科書だったり、新聞だったり、ネットだったりというところに書いてあることを、いったん吸収したらそれをうのみにせず疑ってほしいなど。先ほど佐藤議員がおっしゃったように、人口減少が本当に問題なのかと。高齢化するのが問題なのかと、荒川議員がおっしゃっていましたが、そのようなことをぜひ、もっと疑ってほしいと思います。

高齢者とICTのこと、木村さんがおっしゃっていましたが、私はこれからの社会、やはり買い物とか交通のことに限っては、ICTとかAIというのは非常に相性がいいものだと思っていて、そこら辺も独自の目線で疑って、若者の皆さんのアイデアをいただきたいなど、議会としても思うところであります。

もう一つ言いたいのは、自分は自分というか、学校とかで教わると思うのですけれども、人は人、自分は自分というのですけれども、意外とこのまちの議論をするときに、すぐに比較をします。どうしても、隣の福岡市の話がすぐ出てきます。議会でもよく出ますけれども、それはもう最低限でいいのかなと私は思っていて、福岡は福岡だし、北九州は北九州と思っています。

そこで、今日もお越しの先輩方に申し上げたいのは、先輩方とお話をする、昔はよかったということをよく耳にしますが、昔は昔ということで、若者が将来に目を向けるような支えを先輩方にしていきたいと思ったり、若い皆さんにはムーブメントを自分たちでつくって、新しい歴史とか北九州の魅力を自分たちでつくってほしいなど。行政がどうではなくてということをお願いして、意見とさせていただきたいと思ったり。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

○南教授 どうもありがとうございました。それでは、荒川議員お願ひします。

○荒川議員 若い皆様方、発言ありがとうございました。日ごろ、なかなか10代の皆さん方とお話をする機会というものはないものですから、今日お話を伺いしていただき、感想ですが、これからの北九州市、あるいは社会を担っていくという若い皆さん方は、一生懸命考えていらっしゃるということがよく分かりましたし、そのことは、本当にこれからの希望ではないかなと思います。

私は、高齢化社会というのが、ややもするとマイナスイメージということは、やはり払拭していく必要があるのではないかと申し上げたわけですが、高齢者が生き生きと幸せに生活している姿を見ることは、やはり若い人たちが将来の自分たちのイメージを重ねていったときに、希望につながっていくのではないかとということも、ぜひ申し上げておきたいと思ったり。ですから、今日は本当にいい機会を与えていただき、うれしく思っています。ありがとうございました。

○南教授 どうもありがとうございました。それでは、あと残り20～30分ほどございます。事前に市民の方からも御意見をいただいておりますし、今日御参加の皆様からも意見シートをいただいております。あるいは、今日、若者の方の参加も多数いただいておりますので、そういった方からの質問や御意見に対して、登壇者が答えるという形で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、事前にいただいた意見シート、あるいは、本日いただいた意見シートのうち、私のほうで4つほどテーマを絞らせていただきましたので、それについて順次、登壇者から

お話をいただきたいと思っております。

1つ目が、今日いただいた意見シートでも、人が集まり、魅力あるまちづくりなり、イベントの開催が必要ではないかという御意見をいただいておりますし、また、事前にいただいた御意見では、小倉駅前や黒崎駅前にある大型商業施設ですとか、あるいは八幡にあるレクリエーション施設、そういったところが撤退するという中で、若者に魅力あるまちであるためには、そういった商業やレクリエーション分野の活性化、あるいは、まちの活気づくりというのが必要ではないかという御意見を多数いただいております。

そうした、活気のあるまちづくりに関しまして、佐藤議員、もし御提案あるいはコメント等があればお願いいたします。

○佐藤議員 ありがとうございます。まちの活気づくり、イベントだったり、人が集まる、そういった魅力づくりが必要ではないかという御質問だと思います。

北九州市は、実は今、魚町で国家戦略特区を活用して、道路上にマルシェだったり、夜市を出して、一定のにぎわいをつくるための活動をしております。これは、民間のまちの方々が中心になってやっている取り組みでありまして、定期的にイベントもやっておりますけれども、通年を通して道路上でいろいろなイベントだったり、活動をすることで、まちのにぎわいを生み出しております。

こうした、例えば道路とか河川、あるいは公園、こういった公共空間。道路であれば、普段、車が通る交通手段の場所であると思っておられる方も多いかと思っておりますけれども、実はまちの人たちのさまざまな活動の場所に変えることができるわけでありまして、特区を活用したり、ルールを柔軟に運用することで、そうした中心市街の道路や河川とか公園、そういったところでにぎわいづくりに資する活動を民間の方々にしっかりやってもらう。そういうことをやっていかなければならないと思っております。

また、旧小倉ホテルが今度解体されて、あの場所が広場になるわけでありまして。この広場も民間の方々が運営管理をしていただくように、恐らくなっていくと思っておりますので、まちのど真ん中で、さまざまなイベントを通して、にぎわいをまた創出していく必要があると思っておりますし、そのことについて、私は期待をしております。

○南教授 どうもありがとうございます。次に、事前にいただいたシートの中には、子育て環境の充実に関する御意見等も多数いただいております。例えば、もっと子育てがしやすいように保育園、幼稚園をふやし、育児休暇を取りやすい世の中にするですとか、あるいは、育児、医療サービスの充実、未来の子供のための教育費の負担を、北九州市の地域の特有で行ってはどうとか、子育て環境の充実、子育て世代に対する支援などについても、さまざま御意見をいただいているところでございます。

これにつきまして、松岡議員、コメントがありましたらお願いします。

○松岡議員 子育て支援について、これは非常に重要なテーマでありまして、我が北九州市は、昭和54年にピークでありました106万人の時には、子供が1万4,000人以上生まれていたのです。先ほど基調講演で南先生からありましたように、今は7,300人。約半数に子供の数が減少して、高齢化に伴って人口が減っていると、こういう実態があるのです。

子育てに力を入れないと、本当に人が減ってしまうというのが、今の状況でありまして、若者、女性、そして子育て。これに北九州市、市議会、行政としても今、全力を挙げてお

りまして、待機児童対策であったり、子ども食堂、子供の貧困であったり、児童虐待防止。これは保健病院委員会のほうでも、児童虐待防止条例をつくろうということで今、最終案を盛り込んでいますし、教育の負担の軽減についても、議会でさまざまな話がなされております。

先ほど、教育の負担ということでありましたけれども、若者、女性、そして子育て支援、幼児教育の無償化というのを目玉に上げておるのですが、その実態はどうかということで、4月、5月、6月に100万人訪問調査運動ということで、全国の公明党の議員が現場に入って、北九州市内においてもアンケート調査を行いました。

その中で、子育て、教育の負担に不安というのが第1位でありまして、将来の進学などの費用の負担46.7%、授業料や保育料の負担が重い13.7%、学費とか習い事の負担が重い10.4%、あと3.2%は通学用品とかです。74%の方が教育の負担が重いというデータが出ております。希望する子供の数は2人以上ですけれども、こういった教育の負担があるから、出生率が1.6、2にいかないのです。だから減少しているという実態が明らかになりました。

そして、この教育の負担については、2019年10月に消費税が上がるわけですが、この費用は全部、子育て費用や社会保障に使おうということになりまして、全部というか、一部ですけれども、教育の費用の負担になります。これが、0歳～2歳までの非課税世帯には無償、そして、3歳～5歳までは2万5,700円を限度に利用料を無償化する。こういったことで、教育の負担を減らそうということでもあります。

子育て支援をすることが人口減少、そして、高齢者にも関係あります。支える人をふやさない、当然、年金は減っていく。こういったところで、やはり子供に、いかに教育に費用を使わないといけないか。これも北九州市議会でも議論されております。しっかりこのところに全力で頑張っていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

○南教授 ありがとうございます。また、いただいている意見シートを拝見すると、何とか頑張って治安を改善してほしいですとか、あるいは、北九州市は治安が悪いというイメージがあるので、それをなくしてはどうかといった御意見をいただいております。また、本日、御参加になられている方からの御意見としては、北九州市にはいいものがいっぱいあるので、そういうのをアピールすればいいのではないかとといった御意見ですとか、何にしてもPR不足であるという御指摘をいただいております。

いってみれば、安全・安心のまちづくりをいかに進めていくのか、あるいは、いろいろなイメージを北九州に対してお持ちの方がおられるわけですが、それも踏まえつつ、いかにそれを必要なものは払拭していくか、あるいは、都市イメージを向上させていくかという御意見が多数寄せられています。

このあたりにつきまして、奥村議員、コメントがあればお願いします。

○奥村議員 ありがとうございます。治安が悪いということはよく言われます。他都市の方からも言われますし、市民の皆様も、そのイメージをどうにかというのは、日ごろからよく聞いております。

ここで最初に、我がハートフル北九州という会派ですけれども、同僚の大久保無我議員が昔、私にくれたデータが今ありますので、少しお話しさせていただきたいと思っております。

全国の政令指定都市別の刑法犯認知件数、大きな犯罪の件数です。これが政令指定都市1位からずっと出ているわけですが、第1位は大阪市ということで、非常に断トツなのです。これは人口で割っていますから、人口が多いから多いわけではなくて、人口10万人ごとで割っていますから平等な数なのですけれども、大阪1位。第2位は、大阪府の堺市なのでございますが、第3位は、実は福岡市でございます。北九州はずっと下がって第9位ということで、結構昔から、20都市ある中で第9位、真ん中くらいを推移しているわけなのです。でも、福岡市に行くと、北九州は柄が悪いからと言われて、私も非常に悔しい思いをよくしていますが、数値で見ると、実はこういったことが分かるわけなのです。

ここで私が課題だなと思うのは、だから自分たちが思っているほど悪くないということはいっぱいあるわけです。これは私の個人的意見で、違ったら叱っていただければと思います。ほかのまちの人から、北九州最悪だ、悪い、と言われてたらやはり腹が立つのですが、逆に、北九州は意外と治安いいよねと言われてたら、いや、そんなことないよと言ってしまふ人が結構いるのではないかと感じておりまして、だから、自分で自分のことをいいというのがあまり得意ではないまちなのかと、私はずっと感じています。それが、先ほどのPR不足というところにつながるのではないかなと思っていて、自分たちでは、日本一だよとかいうのをあまり言わない、言いたがらないというか、言うのを格好いいと思わないというのがあるのかなと、私はそう思っています。

先ほど申し上げたように、子育てが日本一とか、例えば、門司港だけではなくて、全市で映画の街とか、いろいろロケをして、すごくロケに来たりしています。それから、先ほど佐藤議員が言った、洋上風力発電とかいろいろなことがあるのですが、これは行政がいくら外に発信しても、なかなか伝わらない。

一番重要だと思うのは、私は市民の皆様が納得していただいて、皆さん自身が発信していただかないと、例えば、行政が東京とか福岡に行って、北九州のこれは最高だよと言っても、その方が北九州のことを知っている方で、どうかな、などと言われると、やはり信用できないことになってしまうので、行政は行政で発信をする、私どもも議会で発信をする、そして、その裏づけを市民の皆様がしていただくことによって、本当にこのまちのイメージをつけていけるのではないかと、私は思っています。

ぜひ、今北九州市が目指しているところを知っていただいて、納得をしていただいて、自信を持って、外で発信と一緒に、皆様とさせていただければと、そのように思っております。どうぞよろしく申し上げます。

○南教授 ありがとうございます。また、いただいた意見シートに目を向けますと、北九州のさまざまな課題の解決や対応等に向けては、市、議会、あるいは市長、行政、そういった全体を指しておられると思いますけれども、市と民、これは市民の皆様、あるいは民間企業等も含めた地域のさまざまな団体、あるいは個人ということかと思えます。市と民が議論し、よりよい方策を導き出し、協力し合うことが、北九州における人口減少問題の解決策だと思います。今回のカフェトーク in 北九州は、まさに、市と民の議論の場として、人口問題の解決策の一步になるものと期待します。ということで、その他、いろいろ記述をいただいておりますが、市も重要な政策課題に関して、市民と議会、それから行政が議論をして、みんなで当事者意識を持つ機会の充実が必要ではないかという、そういった御

意見かと思えます。

この点につきまして、荒川議員からコメントがありましたらお願いします。

○荒川議員 今日、議会や行政を身近に感じていただいて、いろいろ率直な声をお伺いする場という、その一環で開かれていると考えるわけですが、やはり、私たち議員は、市民の皆さんから選ばれて、皆さんの声を行政に届ける役割。だから、行政のいろいろな課題について検証し、監視をするという役割を担っているわけで、そういう意味では、皆さん、企業を含めて、多くの方との意見交換は非常に大事だと思います。

議会としても、開かれた議会ということで、こういう取り組みを行ったり、あるいは、いわゆる会議録の公開、それから、今、行っている議会中継を、もっと拡大してはどうかという議論もされておりますし、大いにそういう取り組みを進めて、ぜひ皆さんに身近に感じていただけるように、我々も努力していきたいなと思っています。

それと1点だけ、先ほど松岡議員から、消費税の問題を言われましたけれども、北九州はやはり高齢化が進んでいる、年金が少ない、そして市民所得が非常に低いのです。そこにもってきて、消費税が増税されるというのは、非常に打撃があると思います。これは国がやることですから、我々はこれをどうしたらいいかということを考えたときに、やはり皆さんの声をしっかり聞いて、国に意見を上げていかなければいけないということを、改めて強く感じたということをおわせて発言しておきたいと思っています。

○南教授 ありがとうございます。それでは、本日は、若者代表のパネリスト4名の方以外にも、まちづくりに関心のある若者が多数、会場に来ていただいております。ぜひ、その若者の皆さんの生の声を聞いてみたいと思いますので、若者席で、本日のテーマ、人口減少に関する御意見等がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。では、マイクを渡してください。

○質問者A 九州大学文学部に所属しております。先ほど奥村議員と佐藤議員のお話の中に、生産性を向上するためにAIを導入していきたいというお話があったのですが、その点に少し疑問を覚えたので、質問というか意見を言わせていただきたいと思っています。

まず、そもそも何かしら、プログラムとかではなくても、ものをつくるときは、最初に何をつくるかを決めると思うのです。例えば、料理をつくる時だったら、スパゲッティをつくるからこれを炒めなければいけないとか、そういうのがあると思うのですけれども、多分、現時点だと、AIを使いたいとは思っていても、では何に使うのかというのが、そこまで具体的に議論されていないのではないかと、というのが少し疑問に思ったので、そのあたりについて、少し意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

○南教授 ありがとうございます。佐藤議員と奥村議員にお答えいただくということでよろしいですか。では、奥村議員お願いします。

○奥村議員 ありがとうございます。今おっしゃったように、現時点で、どこに何をAIに担わせるかというのは、多分、全て決まっているわけではないと思いますが、例えば、先行しているところをいくと、シンガポールは国を挙げて、高齢化とか、そういった足りないところにAIをどんどん組み入れていって、GDPの伸びが世界一だという話が出ていると思うので、そういうところを見本にしていきながら、北九州市が足りないのは、やはり労働力だったり、高齢化の部分で介護職の人が足りないとかいうところがあるので、

やはりそこに組み入れる。人口減の労働力や、いろいろ足りないところにA Iが入っていくというのは、私は現実的にも、確かに、今すぐこうと言えないところはあっても申し訳ないのですが、ただ、先行事例を見れば、既に具体化しているところは結構あります。

例えば、特区でやっているのは、介護でロボットを使うということで、特に、介護するときに移動するのが非常に大変だということで、介護職の中で非常に重い比率を占めているのは移動なのです。その部分で、A Iを活用してロボットを使うことによって、かなりの手が離れていくのであれば、本来したいほかの仕事ができて、人手不足を賄っていこうということは、一つ可能なのではないかと思います。

すみません、個別の部分で長くなってしまうのですが、もしよかったら個別に話をさせてもらいたいと思います。佐藤議員、続きを。

○佐藤議員 奥村議員から、いろいろ説明していただきました。

まだまだ課題はあると思うのですが、きょうの議論の中で、公共交通をどうやって維持していくのかという議論がありました。財政難の中で、公共交通を維持していくのは本当に大変なのですが、これをA Iだったり、ロボット、先端技術を活用しながら、自動運転を進めていくことで、こうした課題に対応していくこともできると思っておりますので、今できることを一つずつやっていくことが大事だと思います。

○南教授 ありがとうございます。それでは、次の若者の方をお願いします。

○質問者B 九州国際大学付属高等学校の2年です。今回のパネルディスカッションの中で、全体的に話として出てきたのが、情報発信だったり、PRだったりと思うのですが、PRの方法だったり、具体的な案が何かありましたら、お願いします。

例えば、若者だったら、SNSという方法があると思うのですが、SNSは若者にとって、余暇の一部だったりするので、余暇の中でこういう北九州の魅力があるのだよというのを、どのようにしたら北九州の魅力をもっと伝えられるかなと思いました。

○南教授 どうもありがとうございます。では、挙手いただいたので、佐藤議員からお願いします。

○佐藤議員 御質問ありがとうございます。今、SNS等で若者は発信をするのだということだったと思います。北九州市も実は、ユーチューブを使って北九州の魅力、例えばきれいな景色だったりとか、おいしい食べ物だったりというのを情報発信するようになりました。

ユーチューブで発信することの強みは何かというと、例えば、ユーチューバーといわれる、今人気の職業といいますか、ありますけれども、そういう人気のユーチューバーには、その背景にたくさんの支持者がいるのです。そういう人気のユーチューバーなどを活用して、情報発信することで、総花的に、無差別に情報発信するよりも、効果的にユーチューバーの背景にある支持者に届けることができますので、そうした発信だけではなくて、受信というのをしっかり考えながら、情報発信をしていくということが効果的かなと思っております。余暇の一環として、ユーチューブを見ている方々は多いと思います。私も寝る前は、いつもユーチューブを見ているのですが、そういう発信の仕方も、受信のさせ方もあるのだろうと思います。

○南教授 ありがとうございます。では、奥村議員をお願いします。

○奥村議員 情報ですごく重要だと思うのは、伝えたい側と受け取る側で全然違うのです。これを知ってほしいと一生懸命発信するけれども、知りたい人はどこにもいないという状況はすごく多くて、行政とかは、やはり伝え方とか得意ではないのです。SNSもどんどん進化して変わっていく。動画配信サイトもサービスがどんどん変わっていく中で、なかなかそれに対応するのは難しいと思います。

フォロワーがない、要は興味を持ってくれないアカウントで、いくら何千も発信しても意味がないので、本当に行政は、私は苦手だと思います。だから、先ほど言ったように、フォロワーがたくさんいる人たちに協力してもらったりしないと、発信というのはすごく難しいと思っています。

それよりも、私が先ほど言った、若い皆さんは、若い皆さんが持っているフォロワーがいるわけだから、そこで発信をぜひしてほしいと思います。みんなでSNSをやっても、多分、効果がある人とない人がいるので、効果がある、得意な人がどんどんやってもらえるように、情報提供を行政からして、こんなことをやっているからということをつけて、それを皆さんが食いついて出していくようなことをやらないと、多分、発信はうまくいかないのではないかなと、最近のネット事情を見て思っております。

○南教授 では、松岡議員お願いします。

○松岡議員 今の効果的なPRということで、議会でも、戦略的広報ということで議論になっておまして、先だって、このチャチャタウンで有名ユーチューバーが来て、ブルゾンちえみが来たときよりも、もう何千人も来て、ここがあふれたという事例もありますし、行政も議会も、そういう戦略的広報、そして有名なユーチューバーとかを呼び込んで情報発信しようと、今、取り組んでいますので、またブラッシュアップして頑張っていきたいと思っています。

○南教授 荒川議員、お願いします。

○荒川議員 私などはもう、そういう情報発信とかいう分野とは、非常にかげ離れた存在ではないかと、ITに弱いという自覚を持っております。ですが、大事だと思うのです。

ただ、他都市と比べて横並びの情報をいくら発信しても、なかなか見てはくれないのではないかと思うので、例えば、高齢者対策にしる、子育て支援にしる、北九州ならではのインパクトのある、そういう政策をやって、それを大々的に広げていくという、そういう観点が必要だと私は感じております。ありがとうございました。

○南教授 ありがとうございます。では、木村さんお願いします。

○木村さん 御意見ありがとうございます。先生方の意見を聞いていて、提案させていただきたいと思ったのが、奥村議員がおっしゃっていた、インフルエンサー、今、ユーチューバーがやっていて、北九州にいる若者もそれぞれのフォロワーがいて、広報できるのではないかというお話だったのですけれども、例えば、この間、あやなんさんが北九州の大使になりましたけれども、それだけだと、あやなんさんのユーチューブを見る女の子だったり、若い子だったりにしか伝わらないと思うのです。

奥村議員が言ったように、北九州にいる若者がそれぞれで発信して、それぞれで北九州市は好きだな、こういうところが好きだなというのを発信できるように提案したいのが、北九州市の共通のハッシュタグをつくってみてはいかがかなと思っています、何でかという

と、私は結構、インスタグラムとか、大学生なのでよくするのですが、北九州と検索しても、いろいろな情報があって、北九州はこういうところなんだということがなかなか伝わってこなかったりだとか、関係ない、ただ単に北九州とつけただけで、変な画像が出てきたりとかすることもあるので、若者が、北九州のここいいなとか、ここすてきと思ったところには、こういうハッシュタグをつけましょうみたいな広報の仕方もあるのではないかなと思っていて、若者は結構ハッシュタグをつけがちなので、そういう部分も検討されてみてはいかがかなと思っています。

○南教授 ありがとうございます。もう少し時間がありますので、若者の人で。ではお願いします。

○質問者C ありがとうございます。九州大学3年です。人口の地域性というところについて質問があるのですが、議論1で課題がいろいろ出てきたと思うのですが、それは大きく分けて2つに分かれると思うのです。一つは、社会保障だったり税収といった、市全体の問題で、もう一つが、行政サービスの減少。今、議論で大きくなっている交通機関だったり、伝統の継承だったり、それは結構ピンポイントな問題になってくると思うのです。

社会増減で500人プラスになりましたとかいって、そういうことでよくなるのは、全体としては、少なくとも数字としてよくなるとは思いますが、例えば、小倉のところに、人口が500人ふえましたとなるのと、例えば、小倉南区の本当に田舎のほうに人が全然いない過疎化が結局とどまっていけないとか、解決されていないというのは、結構あるのではないかなというふうに思っていて、そういう偏りをどういうふうに解決するかというふうに考えたときに、自分は大学で市町村合併についてよく調べるのですが、その中でも、やはり北九州市というのは5市の対等合併とあって、地域の独自性があられる、極めて珍しい事例だとあって、政令指定都市だからこそ、北九州市は行政区というものが7つあると思うのですが、連携しながら考えないといけないのは分かるのですが、その中で区の独自性をどうやって生かして、地域それぞれでどうやってアピールしているのか。

先ほど、〇〇なまち北九州、というのが大事だという話が出たと思うのですが、〇〇なまち、というのをいっぱい作る感じでアピールするのが大事かなと思うのです。長くなってすみません。そういった連携とか、独自性のアピールというのがどうやって行われているのかなというのがありましたらお願いします。

○南教授 ありがとうございます。どう独自性をPRしていくのかということと、あと話の前段では、市内での地域間での格差といいますか、そういった視点も重要ではないかといったお話だったかと思います。

今のお問いかけにつきまして、では、松岡議員お願いします。

○松岡議員 前段の、偏りをどうするかというお話で、今、人口減少で論議するときに、都市の考え方としてコンパクトシティ、要するにコンパクトにして、人口減少とともにまちをつくっていくという考え方があります。それには、選択と集中。やはり、責任ある行政、また議員でもありますから、この人口が減る中、その対策も打ちながら、やはり選択、選ぶ、縮小するところは縮小して、集中するところは集中しないといけない。皆様の議論

も、先ほど消費税等もありましたけれども、では、どこに使うのか。無制限にあれば使えるというのではなく、負担していくところは負担していく。また、お金をかけないといけないところはかける。都市についてもそうだと思います。

こういった選択と集中をする中で、総論賛成、各論反対みたいな論議はありますけれども、やはりここは取捨選択をして、まちづくりを皆さんと一緒に、一方的にはなくて、意見を交わしながらつくっていくことが大事だと思います。

あと、〇〇なまち北九州、ということですが、私は教育文化委員会で、映画の街・北九州ということで推していきまして、今度、東アジア文化都市のメディア芸術というところで、北九州が国際映画祭を開くような、映画の街・北九州でもっともっと売っていいのではないかと考えていますので、そういったところで、また頑張っていきたいなと思っています。

○南教授 では、荒川議員お願いします。

○荒川議員 1つの都市として、5市合併して、北九州は55周年以上になったわけですが、やはり各区、旧市のそれぞれの顔がまだあると思うのです。これを無理に集中したりすると、いろいろな意味で矛盾が出てくると思うのです。

私は、いわゆる区が持っている独自の予算、まちづくりを区が主体的にやっていくことができるような、今非常に限られておりますけれども、これをもっと充実させて、区長さんなり、区役所のいわゆるトップの人たちが、その区の課題は何なのかというところをしっかりと考えて、まちづくりを進めていくことが大事だと思いますし、各区にも、それぞれの行政区で選ばれた議員が会をつくっていますので、そこでしっかり意見交換をしながらやっていくことが必要ではないかなと考えております。

○南教授 では、奥村議員お願いします。

○奥村議員 ありがとうございます。先ほどの話で幾つかあったのですが、人口の偏りという面もあるのですが、コンパクトシティという話がありました。これは、どこのまちも非常に難しい課題ですけれども、北九州は先ほど言った、5市合併の名残があって、もちろんコンパクトシティの計画みたいなものはつくり出しているのですが、7区ありますから、少なくとも7つ以上、今考えている想定で拠点があるのです。門司区だけでも何カ所もある。それではコンパクトシティにならないと私は思っていて、集約を簡単にしていくのは、なかなか難しいと思います。

だったら、ここは夢物語で、今すぐ実現ではないのですが、先ほどから出ている自動運転とかいうところを、少し期待して、市としても応援をしていくことで、拠点が幾つかに絞っても、そこまでのアクセスを自動運転がつかないでいくということができれば、そこに一つの継続性が期待できるのではないかなと、私はそう思って、これは期待の段階ですけれども、そのように考えています。

あと、伝統の継承はすごく重要で、私も田舎の人間で、伝統の継承に不安を持っていますが、これこそITとかも非常に関係があると思っていて、実人口だけではなくても、そこに興味を持って訪れる人で、交流人口とかいいですけども、それを超えて、ネットでもいいので、興味を持ってくれる方がどんどんふえていけば、継承というものはある形ではできていくと思います。見なければできないものもあるでしょうけれども、知ってもらうことでつながるものもあると思うので、そういうところでネットとかを、どんどん使って

いくべきかなと思っています。

最後に、5市合併で、それぞれ独自性が残っている。でも、これは私も強みだと思っていて、北九州の特徴は、例えば小倉城周辺が分かりやすいと思っていて、城があって、市庁舎があって、リバーウォークがあって、ぱっと写真を見ると、ほかのまちの人は、何だここ、というわけです。でも、あれが北九州らしさだと思っていて、何でもありで、いろいろなものがある。だから、魅力は人それぞれですから、100人いれば100個の魅力をそれぞれ感じているわけで、何かしらひっかかるまちが北九州だとなるように、何々のまちをいっぱい出していいと。

昔は1個に絞らないと売れないという意見もあったと思うのですが、今はこれだけネットがある世界ですから、いろいろなものをいっぱいつくって、検索すればひっかかる。先ほどのハッシュタグの話もそうですけれども、そういう多種多様なまちになったらいいなと思って、これからも頑張っていきたいと思います。

意見があったら、ぜひいただきたいと思います。ありがとうございます。

○南教授 ありがとうございます。まだ御質問等があまりありませんけれども、所定の15時40分が迫ってまいりました。

本日は、高校生、大学生世代と市議会議員と一緒に登壇をして、互いに意見を述べ合うという、市議会主催としては、とても新しい形でトークイベントが進められてきたと思います。人口問題は北九州市にとって、これまでも、それから、これからも重要な地域課題ですが、私個人的には、今日の若者の皆さんの御意見ですとか、あるいは、市議会議員の皆さんの御意見をお伺いすると、今後の北九州市に大きな希望が持てるのではないかと思ったところです。

これからの市議会におきまして、市民のために多様な観点から熱心な議論が行われるということを期待したいと思いますし、若者を初めとしまして、全ての市民がもっと市議会ですとか、あるいは政治全般、それから行政というものに対して関心を持っていただき、そして、参画していただくということを期待したいなと思っております。

本日は、大変多くの市民の方に、最後まで熱心にお聞きいただきました。心よりお礼を申し上げます。パネリストの皆さん、それから、司会進行のお二方、そして、御参加いただいた全ての皆様に、心より感謝を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。

○司会（宇都宮） 以上でパネルディスカッションを終了させていただきます。

会場の皆様、コーディネーター及びパネリストの皆様に、いま一度大きな拍手をお願いします。登壇者の皆様はお気をつけて御降壇ください。

以上をもちまして、カフェトーク in 北九州を閉会いたします。

本日は、長時間にわたりおつき合いいただき、誠にありがとうございました。